

318

370

6 7 8 9 50 1 2 3 4 5 6 7 8 9 6

始



銃劍術 兩手軍刀術 應用動作ノ研究

陸軍戸山學校校長陸軍步兵大佐 山田良之助殿題字
陸軍戸山學校學生隊長兼 陸軍步兵大尉 太田順次殿 序
同 校 教 官 兼 陸軍步兵大尉 伊藤精司殿校閱
陸軍戸山學校教官兼 陸軍步兵大尉 伊藤精司殿校閱
陸軍士官學校教官 陸軍步兵中尉 江口 卯 吉著

318-370

南

戊午至春

南溪良題



南溪良題

318-370



蛟 得

籠

雲

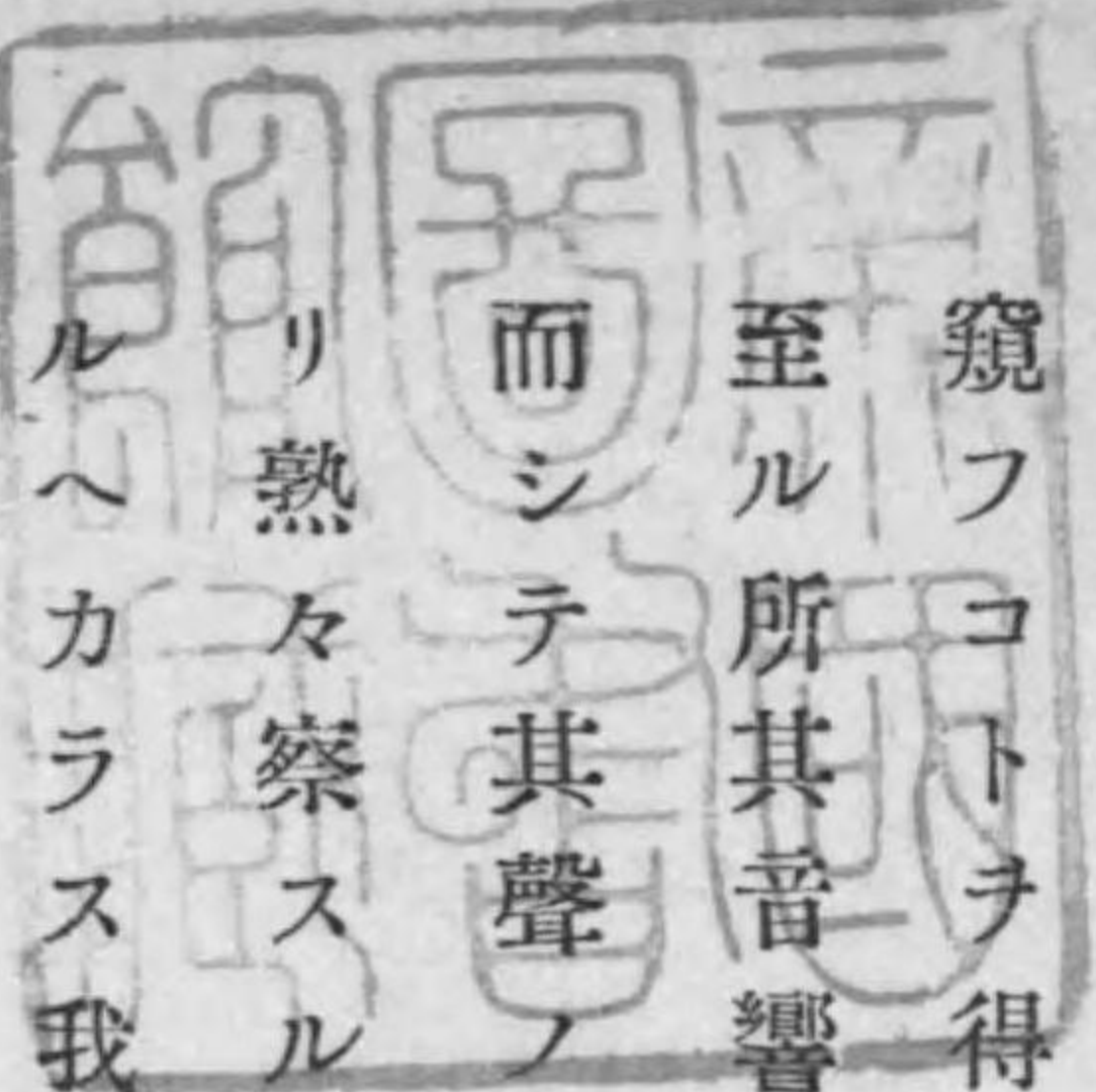
戊午壬春

南溪良題



序

夫レ劍戟ノ聲ハ護國ノ聲ナリ其聲ノアル處誰カ之ヲ
窺フコトヲ得ンヤ其聲ハ山河ヲ覆ヒ曲浦ニ漲リ我國
至ル所其音響ノ充タンコトヲ要ス



而シテ其聲ノ根源ハ術ノ練習ニヨリテ發スルモ
リ熟々察スルニ術ノ構成ハ學理ニ基キ實驗ニ依
ルヘカラス我國古ヨリ其研究ニヨリタルモノナキ

アラサルモ動モスレハ高尚、復雜、單簡或ハ迂遠ニシテ
今日ノ教育ニ適セサルモノアリ江口中尉ハ茲ニ見ル

序



序
處アリテ熱心研究ノ結果其術ヲ系統的ニ構成シ應用
動作ト名ツケ世ニ之ヲ發表シ同好ノ士ニ頒タントス
予大ニ其舉ヲ贊シ聊カ所見ヲ陳スト爾云

大正七年一月吉日

戸山原頭ニ於テ憂々タル聲ヲ聞キツツ

太田大尉識

緒言

夫レ劍道ノ必要ナルコト言ヲ俟タス今ヤ千古未曾有ノ大戰亂勃發シ
爾來益々其必要ヲ認メラレ日ヲ逐ウテ隆盛ニ趣キツ、アルハ大ニ喜
フ所ナリ然ルニ古來ノ劍道書ヲ見ルニ多クハ徒ラニ理論ニ趨リ一心
ヲ云々シ抽象的ノ言辭ヲ以テ驚懼疑惑ヲ云々ス其精神的修養素ヨリ
劍道ノ本旨ナルモ之ニ伴フ身體動作ナクンハ何ヲ以テカ劍道ノ妙技
ヲ發揮スルヲ得ム
以心傳心ノ四字ヲ以テ劍道教授ノ目的ヲ達セントセシハ從來多クノ
劍道家ノ採リシ唯一ノ手段ニシテ是レ獨リ自己一人ノ修得ニ止リ他
人ヲシテ自己修得ノ妙境ヲ了解セシムルコト難ク徒ニ時間ト勞力ト
ヲ費スノミニシテ其進歩ヲシテ遅々タラシムルノ感アリ
是ニ於テ抽象的ナル説明ニ代フルニ具體的ノ説明ヲナスハ正ニ刻下

ノ急務ナリト信ス故ニ今其應用變化ノ擊突法ニ就テ予ノ覺書ヲ摘録
 シ同好諸士ノ研究ニ資シ以テ斯道ノ發展ニ微力ヲ盡サントスルニ外
 ナラス予ノ淺學非才素ヨリ同好諸士ノ満足ヲ滿スヲ得ルヤ甚タ疑ナ
 キ能ハスト雖トモ唯武道ノコト一日モ忽ニスヘカラサルヲ感スルコ
 ト切ナルカ爲メ茲ニ研究ノ肯綮ニ當ラサルヲ願ミス且方法ノ自己流
 タルノ誹ヲ甘ンシ以テ之ヲ公ニスルコトトセリ
 希クハ同好ノ諸士宜シク予ノ微意ノ存スル所ヲ諒察シ尙武振興ノ一
 助トシテ之ヲ採用セラレ高教ヲ仰クヲ得ハ幸甚之レニ過キス

大正七年一月

著 者 識

銃手軍刀術

應用動作ノ研究目次

記述ノ要旨……………一

應用動作教育法ノ概要……………三

第一部 兩手軍刀術應用動作……………一

第一 單一ノ擊突法……………一

其一 面ノ斬擊……………一

其二 前臂ノ斬擊……………五

其三 胴ノ斬擊……………一

其四 喉ノ刺突……………一三

第二 敵我面ヲ斬擊シ來ルトキ之ニ應スル變化ノ擊突法……………一七

其一 正面ヲ斬擊シ來ル場合……………一七

其二 兩手ニテ右半面或ハ左半面ヲ斬擊シ來ル場合……………二三

其三 右(左)片手ニテ正面ヲ斬擊シ來ル場合……………二三

其四 左片手ニテ右半面ヲ斬撃シ來ル場合……………二四

其五 右片手ニテ左半面ヲ斬撃シ來ル場合……………二七

第三 敵我前臂ヲ斬撃シ來ルトキ之ニ應スル變化ノ撃突
法……………二九

第四 敵我胸ヲ斬撃シ來ルトキ之ニ應スル變化ノ撃突法……………三七

第五 敵我喉ヲ刺突シ來ルトキ之ニ應スル變化ノ撃突法……………三九

其一 兩手ニテ前(表)ヨリ刺突シ來ル場合……………三九

其二 兩手ニテ裏ヨリ刺突シ來ル場合……………四二

其三 左片手ニテ前(表)ヨリ刺突シ來ル場合……………四四

其四 左片手ニテ裏ヨリ刺突シ來ル場合……………四六

第六 二段三段ノ撃突法……………四九

其一 面ヨリ起ル撃突法……………五〇

其二 前臂ヨリ起ル撃突法……………五三

其三 突ヨリ起ル撃突法……………五八

第七 見セテ(敵ヲ欺騙シテ)行フ撃突法……………六五

其一 面ニ見セテ行フ撃突法……………六六

其二 前臂ニ見セテ行フ撃突法……………六九

其三 胸ニ見セテ行フ撃突法……………七三

其四 突ニ見セテ行フ撃突法……………七四

第八 打撃或ハ押壓シテ行フ撃突法……………七八

第九 接近シテ行フ撃突法……………八〇

其一 彼我鏑耀リ合ヒノ場合……………八〇

其二 彼我其刀ヲ以テ互ニ右前臂ヲ押ヘタル場合……………八六

第二部 銃劍術應用動作……………八八

第一 單一ノ刺突……………八九

第二 敵我左拳ノ右上方ヨリ刺突シ來ルトキ之ニ應スル
變化ノ刺突法……………九一

第三 敵我左拳ノ左上方ヨリ刺突シ來ルトキ之ニ應スル

變化ノ刺突法	九五
第四 敵我左拳ノ下方ヨリ刺突シ來ルトキ之ニ應スル變化ノ刺突法	九八
第五 敵我喉ヲ刺突シ來ルトキ之ニ應スル變化ノ刺突法	九九
第六 打撃或ハ押壓シテ行フ刺突法	九九
第七 二段三段ノ刺突法	一〇六
第八 見セテ(敵ヲ欺騙シテ)行フ刺突法	一一二
第九 接近シタル場合ノ刺突法	一一八
其一 普通交叉ニテ接近シタル場合	一一九
其二 反對交叉ニテ接近シタル場合	一二四

目次終

記述ノ要旨

- 一、無限ノ使術ナルヲ以テ凡テノ擊突法ヲ網羅シ難ク唯予カ研究シタルモノノミヲ記載セリ
- 二、卷頭ニ教育法ノ概要ヲ述フ
- 三、我身ヲ全フシテ敵ヲ殺傷スルコトヲ主トシタルカ故ニ一撃一突タモ敵ヨリ受クルコトナクシテ敵ヲ殺傷スルコトヲ先ニ記載シ敵ノ擊突シタル刀ヲ擊拂摺リ上ケ、流シ等シテ行フ擊突法ハ後ニ記載セリ
- 四、應用變化ノ擊突法ハ一定ノ法則アルニアラス要ハ敵ノ精神狀態(氣合)進退及擊突方向等其時ノ狀況ニ應シテ隨意變化スルニ在リ故ニ以下記載スル所ノモノハ其一般ヲ示シタルニ過キササルヲ以テ機ニ臨ミ變ニ應シ適宜其場體轉又ハ進出後退シテ行フモノト知ルヘシ

五、基本動作ニ準スル使術ハ之レカ詳細ノ説明ヲ省略セリ

六、一度説明シタル使術ハ何々ニ準ス或ハ何々ノ要領ニヨリト記載セ

リ

七、下欄ニハ上欄ニ記載シアル擊突法ニ對スル變化ノ擊突法ヲ記載セ

リ其ノ方法ハ總テ上欄ニ明記シアリ例ヘハ上欄ノ正面ノ斬撃ニ對

スル變化ノ擊突法兩手突、出前臂等ハ敵我面ヲ斬撃シ來ルトキ之レ

ニ應スル變化ノ擊突法ノ部ニ明示シアルカ如シ

應用動作教育法ノ概要

應用動作ノ教育ハ最初基本的ニ行ヒ略其要領ヲ會得スルニ至ラハ漸次簡易ナルモノヨリ實際的ニ近ツカシムルヲ要ス然ラスシテ終始基本的ニ行ハンカ徒ニ時間ヲ要スルノミニシテ非實際的トナリ其効果極メテ少シ又初步者ヲシテ初メヨリ實際的ニ行ハシムルハ頗ル困難ニシテ却ツテ基本動作ニ於テ習得シタル正確ナル姿勢確實ナル使術ヲ破壊スルニ至ルヘシ左ニ予カ研究シタル教育法ノ愚見ヲ述ヘン

一、此教育ニ於テハ最初ハ防具ヲ着ケサルモ可ナルモ可成總テノ防具ヲ着ケテ行ハシムルヲ可トス之レ一ハ防具ニ慣レシムルト一ハ危險豫防トナリ從ツテ斷乎タル動作ニ出テ實際的ニ實施シ得ルノ利アレハナリ

二、最初ハ空間ニ對シテ行ハシメ其要領ヲ會得スルニ至レハ前後列

相對シテ行ハシムルヲ可トス而シテ度ヲ重ヌルニ從ヒ漸次實際
ニ近ツカシムルヲ要ス

三、教育ヲ完全ナラシムル爲メ教官ハ一動作ヲ教育セハ前後列相對
シテ行ハシムルモ尙各人ニ就キ教官自ラ行ヒ其適否ヲ指摘シテ
教育ノ完成ヲ期スルヲ要ス

四、前後列相對シテ行ハシムルトキハ後列(前列)ニハ前列(後列)ニ教ヘ
タル擊突法ニ對スル變化ノ擊突法即チ裏業ヲ教ヘテ實施セシム
ルヲ要ス

五、應用動作ノ教育ニ於テハ動モスレハ氣勢ノ充實ヲ缺キ非實際的
ニ陥リ易シ故ニ教官ハ常ニ氣勢ノ充實ニ注意シ習技者ヲシテ十
分ナル氣力ヲ以テ行ハシムル如ク指導スルコト特ニ緊要ナリ

銃劍術 兩手軍刀術 應用動作ノ研究

第一部 兩手軍刀術應用動作

第一 單一ノ擊突法

其一 正面ノ斬擊

1. 正面

基本動作ニ於テ其方法ヲ習得シタ
リト雖機會ヲ加味シアラサルヲ以
テ之レヲ直ニ試合ニ應用スルコト
困難ニシテ次ニ示ス如キ機會ヲ發
見シ之ニ乘スルニアラサレハ其奏

イ、兩手突

ロ、出前臂

ハ、切り抜ケ胴

ニ、摺リ上ケ面

ホ、摺リ上ケ胴

ヘ、應シ前臂

効確實ナラス

イ、敵ノ刀尖動搖シタルトキ

ロ、氣或ハ術ヲ以テ攻メタルトキ敵

カ萎縮シタル場合

ハ、敵ノ術ノ止リタルトキ

ニ、敵カ止心ノ状態ニアルトキ

ホ、敵カ我ヲ擊突セントスル起リ頭

ヘ、敵カ前進或ハ後退セントスル時

機

附言 面ノ斬撃ハ多クノ場合敵刀

ノ左側ヨリ斬撃スレトモ敵刀ノ

右側ヨリ斬撃スルコトニモ亦熟

練シ置クヲ要ス

ト、切り返シ面(右半面)
チ、切り返シ前臂

二

2、卷キ面

構刀ノ姿勢ヨリ兩手ヲ以テ刀尖ヲ

下ケ敵刀ノ下ヲ過キ其右側ニ廻シ

テ振り上ケツツ速ニ前進(稍右前方

ニ進出)シ敵ヲ面ヲ斬撃ス

3、右片手正面

(1)ニ示ス如キ機會ヲ發見セハ直ニ

十分ニ踏ミ切り進出スルト同時ニ

左手ヲ離シ右手ヲ以テ敵ノ面ヲ斬

撃ス

此動作ハ擔キテ行フコトアリ何レ

モ右手ハ柄ノ中央附近迄繰リテモ

可ナルモ熟練セサレハ打チ方輕シ

イ、敵ノ刀尖ノ下リタル頭ニ

乘シ面或ハ前臂ヲ斬撃シ

又ハ喉ヲ刺突ス

ロ、其他(1)ノ裏業参照

(1)ノ裏業参照

右臂ハ十分ニ伸展スルヲ要ス

4、左片手右半面

斬撃或ハ刺突セントスル氣分ヲ示シ(刀尖ヲ下クル等ノ手段ヲ取ルモ可ナリ)敵ヲ威嚇シ敵ノ之ニ應シテ其刀尖ヲ下クルカ或ハ萎縮シタルトキハ機ヲ逸セス直ニ左足ヲ前ニ出シ或ハ右足ヲ後方ニ引キテ半身姿勢トナルト同時ニ右手ヲ離シ左腕關節ノ作用ヲ以テ刀及ヲ斜右下方ニ向ハシメツツ刀尖ヲ以テ圓形ヲ畫ク如ク刀ヲ左方ニ廻シ敵ノ右半面ヲ斬撃ス

イ、剩シ面(胴)

ロ、左胴
ハ、摺リ上ケ左胴
ニ、卷キ落シ面
ホ、撃チ拂ヒ面
ヘ、兩手(片手)突
ト、斬撃シ來ル敵ノ刀ヲ脱シ
敵カ舊姿勢ニ復セントシ
テ右手ヲ柄ニ添ヘントス
ル頭ニ乗シ前臂ヲ斬撃ス

其二 前臂ノ斬撃

此動作ハ最機敏ニ行ハサルヘカラス而シテ斬撃シタルトキ左臂ハ十分ニ伸展スルヲ要ス

前臂ノ斬撃ハ多クノ場合右前臂ヲ斬撃スルモノニシテ(左前臂ハ構刀ノ位置ヨリ動搖シタルトキハ斬撃シテ可ナリト云フ人アリ)敵ノ構刀ノ姿勢ニヨリテ種々斬撃法ヲ異ニスルモ敵ノ姿勢如何ニ係ラス彼我適當ノ間合ヒヲ取り構ヘタルトキハ斬撃困難ナルモノナリ故ニ我レ斬撃スルニ容易ナル如ク氣或ハ術

ヲ以テ敵ヲ導クコト肝要ナリ換言
スレハ敵ノ刀尖(右拳)ヲ我レ斬撃ス
ルニ便利ナル如ク上下左右ニ移動
セシムルニアリ其何レニセヨ斬撃
時ノ姿勢崩レサル如ク注意スルヲ
要ス

1、正規ノ姿勢ニアル場合

正規ノ姿勢ニアルトキハ正規ノ斬
撃ニテハ奏効頗ル困難ナルヲ以テ
稍左前方ニ進出スルト同時ニ基本
動作ノ要領ニ準シ斬撃スルカ或ハ
稍左前方ニ進出スルト同時ニ手元
ヲ少シク下ケ刀刃ヲ稍斜左下方ニ

イ、脱シ面

ロ、抜キ前臂

ハ、左片手右半面

ニ、右片手左半面

ホ、左片手突

ハ、兩手右半面

ト、卷落シ突(面、前臂、胴)

向ハシメテ斬撃スルヲ容易ナリト
ス(斬撃時刀ト右臂トハ、ノ字形
トナル)

2、敵ノ刀尖我左方ニ偏シアル場合

(1)ノ方法ヲ應用スルノ外後ニ示ス
卷前臂ノ撃方ヲ應用ス

3、敵ノ刀尖低キ場合

稍左前方ニ進出スルト同時ニ手元
ヲ少シク上ケ兩臂ヲ十分ニ伸シ刀
尖ノ方ニ重ミヲ持ツ氣分ヲ以テ斬
撃ス此ノ外(5)ノ内前臂(6)ノ卷キ前
臂ヲ應用ス

チ、切り返シ前臂

リ、應シ前臂(面、胴)

ヌ、押へ突(面、前臂、胴)

ル、脱シ突

(1)ノ裏業参照

(1)ノ裏業参照

4、擔キ前臂

兩手ヲ以テ刀ヲ左肩ノ方向ニ擔ク
ト同時ニ直ニ進出シテ敵ノ前臂ヲ
斬撃ス

擔ク法ニ大擔中擔(半擔)小擔ノ別ア
リ擔キ方ノ高低ニ依リテ言ヒシモ
ノナリ此方法ハ間合遠キ場合ニ應
用スルコト多ク間合近キ場合ニ行
フコト少ナシ之レ間合近キ時ハ却
ツテ擔ク頭ヲ斬撃セラルルコトア
ルヲ以テナリ故ニ敏速ニ行フヲ要
ス然レトモ擔キタルトキ敵カ其前
臂ヲ防キタルトキハ敵ノ正面或ハ

イ、擔ク頭ニ乗シ面、前臂、胴ヲ
斬撃シ或ハ喉ヲ刺突ス但
シ胴ハ切り抜クルモ可ナ
リ

ロ、脱シ面

ハ、兩手(片手)右半面

ニ、脱シ突(兩手或ハ片手)

ホ、切り返シ前臂

ヘ、應シ前臂

ト、抜キ前臂

右半面ニ變化シ得ルノ利アリ

5、内前臂

兩手ヲ以テ刀及ヲ左斜下方ニ向ハ
シメツツ左拳ヲ僅ニ左方ニ上ケ敵
ノ前臂ヲ内側ヨリ斬撃ス

此ノ方法ハ敵カ著シク刀尖ヲ下ク
ルカ又ハ氣或ハ術ヲ以テ攻メタル
トキ敵カ刀尖ヲ著シク下ケタル場
合又ハ前臂ヲ斬撃スル際刀尖ヲ下
ケテ防ク者ニ對シテ行フコト多シ

6、押へ前臂

我刀ヲ以テ敵ノ刀ヲ其表ヨリ押へ
敵ノ押シ返ス頭ニ乗シ其ノ刀ヲ脱

イ、脱シ面

ロ、切り返シ前臂(面)

ハ、右(左)片手左(右)半面

ニ、脱シ突

ホ、抜キ前臂

イ、押へル頭ニ乗シ前臂ヲ斬

撃ス敵刀ノ下ヨリ脱シテ

斬撃スルモ可ナリ

シ直ニ前臂ヲ斬撃ス

此動作ハ敵ノ手元堅キ場合應用ス
ルコト多ク敵刀ノ下ヨリ脱シテ卷
キ前臂ニ撃ツコトアリ

7、卷キ前臂

手元ニテ小圓ヲ畫ク心持チニテ刀
尖ニテ卷キ込ム如ク敵刀ノ下ヨリ
我刀ヲ廻シ進出シテ敵ノ前臂ヲ斬
撃ス

此方法ハ敵刀ノ上ヨリ脱シテ斬撃
スルモ奏効セサル者ニ對シ或ハ著
シク刀尖ヲ右方ニ偏シ又ハ著シク
刀尖ヲ下クル者ニ對シテ行フコト

(1)ノ裏業参照

多ク間合遠キ場合ニモ亦應用スル
コトアリ但シ熟練セサレハ撃チ方
輕ク業ヲ大キクシテハ奏効スルコ
ト稀ナリ

其三 胴ノ斬撃

彼我適當ノ間合ヲ取り構ヘタルト
キハ胴ノ斬撃ハ頗ル困難ニシテ假
令斬撃スルモ敵カ手元ヲ動搖シタ
ル場合ニアラサレハ多クハ無理業
トナルモノナリ然レトモ斬撃スル
場合ナシトセス

1、飛ヒ込ミ胴

極メテ強ク踏ミ切り業ヲ大キクシ

イ、脱シ面

ロ、切り落シ面、前臂、胴、突

殆ト一足飛ヒニ斷乎トシテ飛ヒ込
ミ敵ノ胸ヲ斬撃ス

此動作ハ試合ノ當初或ハ試合中敵
カ間合ヲ詰メントシテ近寄ルトキ
又ハ敵カ我面ヲ斬撃セントスル意
圖アルヲ察知シタルトキ間ノ外ヨ
リ機動的ニ斷乎トシテ行フトキハ
却ツテ敵ノ意表ニ出テテ奏効スル
コトアルモノニシテ折敷シテ斬撃
スルヲ可トスルコトアリ

2、切り抜ケ胴

殆ト(1)ト同方法ニシテ迅速ニ敵ノ
左(右)腋下ノ方向ニ切り抜ケルヲ異

ハ、受ケ止メ胴

ニ、兩手突(起リ頭ニ乗ス)

ホ、左片手右半面

(1)ノ裏業参照

ナリトス

此動作ヲ行フ場合モ亦(1)ニ同シ

其四 喉ノ刺突

喉ノ刺突ニハ兩手突及片手突ノ別
アリ又前突(正面突)表突裏突ノ別ア
レトモ表突ヲ行フコト稀ニシテ前
突及裏突ヲ行フコト多シ以下示ス
各種ノ方法アレトモ何レモ敵ノ鐔
元ヨリ刺突スル考ヘナカルヘカラ
ス

1、兩手前突

基本動作ノ要領ニヨリテ行フ
此動作ハ間合近キ時或ハ敵カ間ノ

イ、切り抜ケ胴

ロ、流シ面(右半面)

ハ、入レ突

内ニ入り來ルトキ又ハ敵カ間合ヲ詰メ刀尖ヲ下ケ或ハ刀尖ヲ右方ニ偏シタルトキ行フコト多ク稀ニ遠間ヨリ行フコトアリ

2、兩手裏突

刀及ヲ斜左下方ニ向ハシメツツ兩手ヲ稍々後方ニ引キテ刀尖ヲ僅ニ下ケ敵刀ノ下ヨリ其鏢元ニ近ク我刀ヲ脱シ兩手ヲ絞リツツ進出シテ普通交叉ノ反對側(裏)ヨリ敵ノ喉ヲ刺突ス

此動作ハ刀尖ヲ高クシテ構ヘタル者ニ對シ行フ場合多ク特ニ敵ノ鏢

ニ、摺リ上ケ胴

イ、起リ頭ニ乗シ面或ハ前臂ヲ斬撃シ又ハ喉ヲ刺突ス

ロ、擊拂面(前臂、胴)

ハ、卷キ落シ突(面、前臂)

ニ、左片手右半面

元ヨリ刺突スル考ヘナカルヘカラス

3、片手前突

左拳ヲ少シク下クル氣味合(下クルニアラス)ヲ以テ敵ノ鏢元ニ近ク突キ出スト同時ニ右手ヲ離シ右脚ヨリ進出シ敵ノ喉ヲ刺突ス

此動作ハ彼我適當ノ間合ヲ取り氣或ハ術ヲ以テ攻メ合ヒ敵カ居付キタルトキ或ハ敵ノ刀尖右又ハ下ニ偏シタルトキ又ハ近接シテ鏢糶リ合ヒ等ヲナシ間合ヲ取りタル瞬間或ハ敵ノ逃クルヲ追ヒ込ミタル時

イ、起リ頭ニ乗シ左胴ヲ斬撃スルカ或ハ右前方ニ進出シテ面ヲ斬撃ス

ロ、流シ面

ハ、流シ突(入レ突)

ニ、摺リ上ケ左胴

等ニ應用シテ效ヲ奏スルコトアリ
4、片手裏突

右手ヲ離シ刀及ヲ斜左下方ニ向ハシメツ、刀尖ヲ僅ニ下ケ左手ヲ少シク後方ニ引キ敵ノ鐔元ニ近ク其刀下ヨリ我刀ヲ脱シ進出シテ普通交叉ノ反對側(裏)ヨリ敵ノ喉ヲ刺突ス此動作ハ(3)ノ場合ト同シク彼我適當ノ間合ヲ取リテ氣或ハ術ヲ以テ攻メ合ヒ敵カ居付キタルトキ又ハ敵カ刀尖ヲ高クシテ構ヘタル場合等ニ應用スルモノニシテ特ニ左拳ノ上ラサル如ク注意スルヲ要ス

イ、敵ノ刀ヲ引キタル頭ニ乘

シ面ヲ斬撃スルカ或ハ兩

手(片手)ヲ以テ喉ヲ刺突ス

ロ、刺シ前臂

ハ、擊拂面(右半面、前臂、突)

ニ、卷キ落シ面(右半面、前臂、突)

第二 敵我面ヲ斬撃シ來ルトキ之ニ應スル

變化ノ擊突法

其一 正面ヲ斬撃シ來ル場合

1、兩手突

基本動作ノ要領ニヨリ兩手ヲ伸ハシ下腹部ニカヲ入レ進出シテ敵ノ喉ヲ刺突ス
此動作ハ敵カ我面ヲ斬撃セントシテ起ル頭或ハ刀ヲ頭上ニ振り上ゲタル時機又ハ撃テ下ロサントスル頭ニ乗スルコト肝要ナリ

2、出前臂

上記變化ノ擊方ニ對スル裏業ハ凡テ皮ヲ切ラセテ骨ヲ切ルカ如キ氣分ヲ以テ斷乎トシテ敵ノ頭部ニ向ヒ斬リ込ム一法アルノミ

右ニ同シ

左脚ヨリ體ヲ左方ニ披クト同時ニ左
肩ノ方向ヨリ斬撃スルカ或ハ基本動
作ノ要領ニ準シ敵ノ前臂ヲ斬撃ス
此動作ハ敵カ刀ヲ振り上ケントス
ル起リ頭又ハ刀ヲ頭上ニ振り上ケ
タル時機或ハ刀ヲ撃チ下ロス時ニ
乗スルコト必要ナリ又此動作ニ於
テ敵カ刀ヲ撃チ下ロストキ其右前
臂ヲ押へ其儘面ヲ斬撃スルコトア
リ何レモ敵ノ進出量ニ應シ適宜進
退シテ行フ

3. 切り抜ケ胴

右前方(敵ノ左腋下ノ方向)ニ進出ス

右ニ同シ

ルト同時ニ兩手ヲ以テ敵ノ右胴ヲ
斬撃ス

此動作ハ敵カ刀ヲ振り上クル起リ
頭ニ乗シ斷乎トシテ行フニアラサ
レハ時機ヲ失スルモノナリ而シテ
斬撃後直ニ左手ヲ離スカ或ハ右拳
ニ近ク左拳ヲ繰ル方動作容易ナリ
又此動作ハ體ヲ左ニ披キテ行フコ
トアリ或ハ左前方ニ進出シテ行フ
コトアリ體ヲ左ニ披キ左足ヲ前ニ出
シテ行フトキハ上體ハ敵ノ方ニ向
ケ左拳ハ之ヲ繰リテ右拳ニ近ク握
リ斬撃スルヲ要ス此ノ場合ハ特ニ

腰ヲ引カサル如ク注意スルヲ要ス
4、摺リ上ケ面

我刀ノ左側ノ鎗ヲ以テ撃チ下ロス
敵ノ刀ヲ左上方ニ摺リ上ケ直ニ敵
ノ面ヲ斬撃ス

此動作ハ敵ノ進出量ニ應シ其場進
出後退又ハ體轉シテ行フ

摺リ上ケル方法ハ我刀尖ヲ以テ小
圓形ヲ畫ク如ク僅ニ左方ニ力ヲ加
ヘテ行フ

5、摺リ上ケ胴

我刀ノ左側ノ鎗ヲ以テ撃チ下ロス敵
ノ刀ヲ左上方ニ摺リ上ケ直ニ腕關

イ、右同シ

ロ、面ヲ斬撃スルト同時ニ手
元ヲ下ケ僅ニ腰ヲ落シテ
體當リヲナシ直ニ敵ノ右
胴(面、右半面、前臂)ヲ斬撃ス

(4)ノ裏業參照

節ノ作用(右拳ヲ左ニ捻轉ス)ヲ以テ刀
ヲ左肩ノ方向ニ廻シツツ刀刃ヲ斜
右下方ニ向ハシメ敵ノ右胴ヲ斬撃
ス敵カ我刀ノ右方(普通交叉ノ反對
側)ヨリ斬撃シ來ルトキハ我刀ノ右
側ノ鎗ヲ以テ右上方ニ摺リ上ケ體
ヲ左ニ披キツツ敵ノ右胴ヲ斬撃ス
此動作ハ敵ノ進出量ニ應シ適宜右
(左前方ニ進出シ又ハ後退シ或ハ體
ヲ披キテ行フ而シテ體ヲ右ニ披キ
テ行フ場合ハ斬撃後左手ヲ離スカ
或ハ左拳ヲ繰リテ右拳ニ近ク握リ
テ斬撃スレハ其動作容易ナリ

6、應シ前臂

左足ヨリ左方ニ體ヲ披キツツ敵ノ
撃チ下ロス刀ヲ我刀ノ右側ノ鎗ヲ
以テ右ニ應シ敵ノ前臂ヲ斬撃ス
此動作ハ敵ノ進出量ニ應シ適宜進
退シ或ハ體ヲ披キテ行フ

7、切り返シ面(右半面)

我刀ノ刀刃ヲ以テ撃チ下ロス敵ノ
刀ヲ我右方ニ受ケ流シ直ニ敵ノ面
(右半面)ヲ斬撃ス

此動作ハ敵ノ進出量ニ應シ適宜進
退シ或ハ體ヲ披キニ行フ

8、切り返シ前臂

(7)ノ要領ニ準シ前臂ヲ斬撃ス

9、卷キ落面(前臂、突)

兩拳ヲ以テ小圓形ヲ畫ク如ク撃チ
下ロス敵ノ刀ヲ右前下方ニ卷キ落
シ敵ノ面(前臂)ヲ斬撃スルカ或ハ喉
ヲ刺突ス

其二 兩手ニテ右半面或ハ左

半面ヲ斬撃シ來ル場合

此場合ハ敵我正面ヲ斬撃シ來ル場
合ノ變化ヲ應用スレハ可ナリ

其三 右(左)片手ニテ正面ヲ斬

撃シ來ル場合

此場合モ亦右ニ準ス

(4)ノ裏業參照

(4)ノ裏業參照

(4)ノ裏業參照

其四 左片手ニテ右半面ヲ斬
撃シ來ル場合

1、剩シ面(左胴)

體ヲ後方ニ退キ(間合ヲ切り)テ敵刀ヲ
避ケ直ニ進ミテ敵ノ面(左胴)ヲ斬撃ス
此動作ニ於テ敵カ剩サレタル時其
ノ儘間合ヲ詰メ我ニ接近スルトキ
ハ其場或ハ後退シツツ斬撃シ然ラ
サルトキハ進出シテ斬撃スルヲ要
ス又敵カ剩サレタル儘構刀ノ姿勢
ニ復スルトキハ其復セントスル頭
ニ乘シ右前臂ヲ斬撃スルヲ得然レ

左片手業ニ對シテハ凡テ離
シタル右手ヲ柄ニ添ヘントス
ル頭ニ乘シ前臂ヲ斬撃シ得
ルモノナリ例ハ敵カ左片
手ニテ右半面ヲ斬撃シタル
場合我之ヲ受ケ止メ或ハ擊
拂シタルトキ敵カ再ヒ舊姿
勢ニ復セントシ右手ヲ柄ニ添
ヘントスル頭ニ乘シ其前臂
ヲ斬撃スルカ如シ(以下同シ)

トモ敵モ亦更ニ續イテ右半面左半
面ヲ斬撃スルコトアルヲ以テ之ニ
備フル注意肝要ナリ

2、左胴

敵カ刀ヲ撃チ下ロス頭ニ乘シ右前
方ニ進出スルト同時ニ敵ノ左胴ヲ
斬撃ス

此動作ハ體ヲ稍低クシテ斷乎トシ
テ一舉ニ斬撃スルヲ可トス

3、摺リ上ケ左胴

我刀ノ右側ノ鎧ヲ以テ敵刀ヲ右上
方ニ摺リ上ケ腕關節ノ作用ニヨリ
刀尖ヲ以テ半圓形ヲ畫ク如ク刀ヲ
右肩ノ方向ニ廻シ刀刃ヲ斜左下方

直チニ右手ヲ下ケ刀刃ヲ以
テ敵ノ斬撃ズルヲ防グ

ニ向ハシメツツ敵ノ左胴ヲ斬撃ス
此動作ハ敵ノ進出量ニ應シ適宜進
退シテ行フ

4、卷キ落シ面(半面、突)

兩拳ヲ以テ小圓形ヲ畫ク如ク撃チ
下ロス敵ノ刀ヲ右前下方ニ卷キ落
シ敵ノ面(半面)ヲ斬撃スルカ或ハ喉
ヲ刺突ス

此動作ハ敵ノ進出量ニ應シ適宜進
退シテ行フ

5、撃拂面(右半面、突)

基本動作面ノ返撃(右ニ撃拂)ノ要領
ニ準シ敵刀ヲ右前方ニ撃チ拂ヒ直
ニ敵ノ面(右半面)ヲ斬撃スルカ或ハ

喉ヲ刺突ス

此動作ハ敵ノ進出量ニ應シ適宜進
退シテ行フ

其五 右片手ニテ左半面ヲ斬
撃シ來ル場合

右片手ニテ左半面ヲ斬撃シ來ル場
合ハ極メテ僅少ナルモ全然無キニ
シモアラサルヲ以テ一二ノ變化ヲ
掲ケタリ

1、剩シ面(前臂、胴)

其四ノ場合ノ(1)ノ要領ニヨリ敵刀
ヲ脱シ敵ノ面(前臂、右胴)ヲ斬撃ス

2、胴

直ニ右手ヲ上ケテ面ヲ防キ
或ハ右手ヲ下ケテ前臂、胴ヲ
防ク

敵我左半面ニ向ヒ撃チ下ロサント
スルヤ直ニ左前方ニ進出スルト同
時ニ敵ノ右胴ヲ斬撃ス
此動作ハ體ヲ低クシテ行フカ或ハ
折敷ヲナシテ行フヲ有利トスルコ
トアリ

3、摺リ上ケ面(胴)

我刀ノ左側ノ鎧ヲ以テ撃チ下ロス
敵ノ刀ヲ左上方ニ摺リ上ケ直ニ敵
ノ面(右胴)ヲ斬撃ス

此動作ハ敵ノ進出量ニ應シ適宜進
退或ハ體轉シテ行フ

4、擊拂面(右半面、突)

基本動作面ノ返撃(左ニ擊拂)ノ要領

ニ準シ敵刀ヲ左前方ニ撃チ拂ヒ直
ニ敵ノ面(右半面)ヲ斬撃スルカ或ハ
喉ヲ刺突ス

第三 敵我前臂ヲ斬撃シ來ルトキ之ニ

應スル變化ノ擊突法

1、脱シ面

兩手ヲ僅ニ後方ニ引ク氣分ヲ以テ
刀ヲ頭上ニ振リ上ケ敵ノ刀ヲ脱ス
ト同時ニ敵ノ面ヲ斬撃ス

此動作ハ敵ノ進出量ニ應シ其場或
ハ僅ニ後退シテ敵刀ヲ脱シ進出シ
又ハ其場ニ於テ斬撃ス敵若シ脱サ

敵ヨリ脱サルルヤ直ニ右
胴ヲ切り抜ケ或ハ兩手突
又ハ續イテ前臂ヲ斬撃ス

レタル餘勢ヲ以テ體當リヲナサン
トスルトキハ後退シツ、斬撃ス

2、抜キ前臂

左足ヨリ左後方ニ退クト同時ニ刀
尖ヲ下ケツ、兩手ヲ僅ニ左方ニ引
キテ敵ノ刀ヲ脱シ直ニ右足ヨリ進
出シ敵ノ前臂ヲ斬撃ス

此動作ハ敵ノ進出量少ナキ時ハ體
ヲ左ニ抜キテ行フコトアリ

3、兩手右半面

體ヲ僅ニ後方ニ引ク氣分ヲ以テ右
足ヲ左足ニ引キ着ケ(無理ニ引キ着
ケサルモ可ナリ)ツ、刀尖ヲ右方ニ
シ兩拳ヲ略同高ニシテ柄ヲ前額前

脱サルルヤ直ニ續イテ前
臂又ハ左片手ニテ右半面
ヲ斬撃ス

脱サル、ヤ直ニ續イテ前
臂或ハ右胴ヲ斬撃シ又ハ
喉ヲ刺突ス右胴ヲ斬撃ス
ルトキハ切り抜クルカ或
ハ折敷ヲナスヲ有利トス

ルコトアリ

ニ上ケ敵刀ヲ脱シ同時ニ兩拳ノ作
用ニヨリ刀尖ヲ以テ右ヨリ大キク
圓形ヲ畫ク如ク刀ヲ左方ニ廻シ刀
及ヲ斜右下方ニ向ハシメツツ右臂
ヲ十分ニ伸シ敵ノ右半面ヲ斬撃ス
此動作ニ於テ敵刀ヲ脱ス時ハ稍後
方ニ退キ斬撃スルトキハ進出スル
ヲ可トス

4、脱シ突

左足ヨリ僅ニ後退シ或ハ其場ニ於
テ兩手ヲ引キ敵ノ刀ヲ脱シ直ニ進
ンテ兩手ヲ以テ敵ノ喉ヲ刺突ス
此動作ハ敵ノ進出量ニ應シ適宜進

脱サルルヤ直ニ續イテ前
臂或ハ右胴ヲ斬撃ス

退シテ行フ

5、左片手右半面

右手ヲ離シ敵ノ刀ヲ脱スト同時ニ
左足ヲ前ニ出スカ或ハ右足ヲ後方
ニ引キテ半身姿勢トナリ左腕關節
ノ作用ニヨリ刀尖ヲ以テ圓形ヲ畫
ク如ク刀ヲ左方ニ廻シ刀刃ヲ斜右
下方ニ向ハシメツツ敵ノ右上方ヨ
リ右半面ヲ斬撃ス

此動作ニ於テ左足ヲ前ニ出スカ或
ハ右足ヲ後方ニ引クカハ敵ノ進出
量ニ關スルモノニシテ特ニ左臂ハ
十分ニ伸ヒ左手縮ラサルヘカラス

イ、摺リ上ケ左胴

ロ、擊拂面

ハ、脱サルヤ直ニ續イテ敵ノ
喉ヲ刺突スルカ或ハ左胴
ヲ斬撃ス

6、右片手左半面

右足ヨリ僅ニ後退シ或ハ其場ニ於
テ刀尖ヲ著シク上クルコトナク右
拳ヲ略右肩ノ高サ附近ニ右臂ヲ輕
ク伸ハシタル儘敏速ニ上ケ敵ノ刀
ヲ脱スト同時ニ右腕關節ノ作用ニ
ヨリ刀尖ヲ以テ圓形ヲ畫ク如ク刀
ヲ右方ニ廻シ刀刃ヲ斜左下方ニ向
ハシメツツ敵ノ左上方ヨリ左半面
ヲ斬撃ス

此動作ハ敵ノ進出量ニ應シ適宜進
退シ或ハ體ヲ右ニ轉シテ行フ特ニ
右臂ハ十分ニ伸展シ右手縮ラサル

イ、摺リ上ケ面(胴)

ロ、擊拂面

ハ、脱サルルヤ直ニ續イテ右
胴ヲ斬撃スカル或ハ喉ヲ
刺突ス

ヘカラス

7、左片手突

敵カ刀ヲ撃チ下ロスト同時ニ右手
ヲ離シテ敵刀ヲ脱シ片手前突ノ要
領ニ準シ敵ノ喉ヲ刺突ス
此動作ニ於テ若シ成效セサル時ハ
前臂ヲ斬撃セラルルコトアルヲ以
テ然ルトキハ直チニ脱シ面或ハ左
片手ニテ右半面ニ變化スルヲ要ス

8、卷キ落シ突(面前臂、胴)

兩拳ヲ以テ小圓形ヲ畫ク如ク撃チ
下ロス敵ノ刀ヲ右前下方ニ卷落シ
直チニ敵ノ喉ヲ刺突ス

イ、脱サルルヤ直ニ突ニ變化

ス

ロ、撃拂前突

ハ、敵カ右手ヲ柄ニ添ヘント

スル頭ニ乗シ前臂ヲ斬撃

ス

ニ、摺リ上ケ胴

イ、右ニ撃拂シテ前臂ヲ斬撃

ス

ロ、直ニ右胴ヲ斬撃ス

卷キ落シタルトキハ刀尖ハ敵ノ喉
ニ向クル如クスルヲ要ス

此動作ハ敵ノ進出量ニ應シ適宜進
退シ或ハ體ヲ轉シテ行フ而シテ卷
落シタル後面、前臂、胴ヲシ撃スルコ
トヲ得

9、切り返シ前臂

敵ノ撃チ下ロス刀ヲ我刀ノ左側ヲ
以テ右方ニ受ケ流シ直ニ切り返シ
テ敵ノ前臂ヲ斬撃ス
此動作ハ特ニ腕關節ノ柔軟掌中ノ
作用必要ニシテ敵ノ進出量ニ應シ
適宜進退シ或ハ體ヲ左ニ轉シテ行フ

應シ前臂

10、應シ前臂(胴、面)

敵ノ撃チ下ロス刀ヲ我刀ノ右側ノ
鎗ヲ以テ右ニ應シ直ニ敵ノ前臂(面、
胴)ヲ斬撃ス
此動作ハ敵ノ進出量ニ應シ適宜進
退シ或ハ體轉シテ行フ

11、押へ突(面、前臂、胴)

敵カ撃チ下ロス時僅ニ前進シテ間
ノ内ニ入ルト同時ニ敵刀ヲ其手元
ニ近ク裏ヨリ押へ直ニ敵ノ喉ヲ刺
突ス(面、前臂、胴ヲ斬撃ス)
此動作ハ敵ノ進出量ニ應シ適宜進
退シテ行フ

イ、右ニ體ヲ轉シテ面ヲ斬撃
ス

ロ、敵カ應シテ前臂ヲ斬撃ス
ルヲ更ニ又我ヨリ右ニ應
シテ前臂ヲ斬撃ス

イ、押へラレタル刀ヲ脱シ面
(右半面)ヲ斬撃ス

ロ、押へラレタル時我刀ヲ敵
刀ノ下ヨリ其表ニ廻シ兩
手前突ノ要領ニヨリ敵ノ
喉ヲ刺突ス

第四 敵我胴ヲ斬撃シ來ルトキ之ニ
應スル變化ノ撃突法

1、脱シ面

十分ニ退キツツ刀ヲ頭上ニ振り上
ケ敵刀ヲ脱シ敵ノ面ヲ斬撃ス
此動作ハ敵ノ進出量ニ應シ適宜進
退シテ行フ而シテ敵刀ヲ脱シタル
後喉ヲ刺突シ得ルコトアリ

2、切り落シ面(前臂、胴、突)

敵カ撃チ下ロシタル刀ヲ稍退キ或
ハ其場ニ於テ右前下方ニ切り落シ
直ニ敵ノ面(前臂、胴)ヲ斬撃スルカ或

イ、摺リ上ケ面(胴)

ロ、摺リ上ケ前臂
ハ、脱サルルヤ一舉ニ體當リ
ヲナシ面、前臂、胴ヲ斬撃ス
ルカ或ハ喉ヲ刺突ス

體當リヲナシ更ニ胴、面、前
臂ヲ斬撃ス

ハ喉ヲ刺突ス

此動作ハ敵ノ進出量ニ應シ適宜進退シ或ハ體ヲ左ニ披キテ行フ

3、受ケ止メ胴

敵ノ撃チ下ロス刀ヲ我刀ノ鐔元ニ近キ刀刃ニテ受ケ止メ體ヲ稍左方ニ披キ敵ノ胴ヲ斬撃ス

此動作ハ受ケ止ムルト同時ニ體當リヲナシ敵ノ姿勢ヲ崩シ直ニ其胴ヲ斬撃スルヲ可トスルコトアリ
體當リハ可成敵ノ手元ヲ下ヨリ前上方ニ押スヲ要ス
敵我左胴ヲ斬撃シ來ル場合モ以上

イ、敵ノ受ケタル反對側ヨリ面ヲ斬撃ス

ロ、敵カ受ケ止メテ胴ヲ斬撃スルトキハ之ニ對シ更ニ上記ノ變化ヲ應用ス

ノ要領ニ準シ敵ノ面、前臂、左胴、及ビ喉ヲ返撃突スルヲ得

第五 敵我喉ヲ刺突シ來ルトキ之ニ應スル變化ノ撃突法

其一 兩手ニテ前(表)ヨリ刺突シ來ル場合

1、切り抜ケ胴

右前方ニ進出スルト同時ニ兩手ヲ以テ敵ノ右胴ヲ斬撃ス
此動作ハ敵我面ヲ斬撃シ來ル場合ノ切り抜ケ胴ト同シク敵カ突キ出

ス頭ニ乗スルコト肝要ナリ其他ノ
動作ハ第二ノ場合其ノ一ノ(3)ニ同
シ

2、流シ面

我刀ノ左側ノ鎧ヲ以テ敵ノ突キ出
シタル刀ヲ左後方ニ拂ヒ流シ直ニ
敵ノ面ヲ斬撃ス
拂ヒ流シタル後稍右前方ニ出テテ
斬撃スルヲ可トスルコトアリ

3、入レ突

左足ヨリ稍後方ニ退クト同時ニ兩
手ヲ以テ刀ヲ引キツツ我刀ノ左側
ノ鎧ヲ以テ敵ノ刀ヲ左後方ニ押へ

直ニ胴ニ變化ス

流シ直ニ進ミテ敵ノ喉ヲ刺突ス

此動作ハ敵ノ進出量ニ應シ適宜進
退シテ行フ

4、摺リ上ケ胴(面)

我刀ノ左側ノ鎧ヲ以テ敵刀ヲ左上
方ニ摺リ上ケ右前方ニ進出(或ハ後
退)シテ敵ノ右(左)胴(面)ヲ斬撃ス

5、剃シ前臂

體ヲ後方ニ退キテ突キ出シタル敵
ノ刀ヲ剃シ敵ノ舊姿勢ニ復セント
スル頭ニ乗シ其ノ前臂ヲ斬撃ス
此動作ハ敵ノ進出量ニ應シ進出或
ハ後退シツツ又ハ體ヲ左ニ披キテ

イ、脱シ面
ロ、左片手右半面
ハ、應シ前臂

行フ

其二 兩手ニテ裏ヨリ刺突シ

來ル場合

1、面(前臂、突)

裏ヨリ刺突セントスル起リ頭ニ乗シ敵ノ正面或ハ前臂ヲ斬撃スルカ又ハ左片手或ハ兩手ヲ以テ敵ノ喉ヲ刺突ス

此動作ハ敵ノ刺突ヲ恐ルルコトナク斷乎トシテ敏速ニ行フヲ要ス

2、撃チ拂ヒ面(前臂、胴)

兩手ヲ以テ敵ノ突キ出ス刀ヲ右前

體當リヲナシ敵ノ體勢ヲ崩シ爾後ノ處置ヲナス

下方ニ撃チ拂ヒ敵ノ面、前臂、或ハ胴ヲ斬撃ス

此動作ハ多クノ場合其場、後退或ハ體轉シテ行フ

3、摺リ上ケ面(前臂、胴)

兩手ヲ僅ニ上ケ我刀ノ鐔元ニ近キ右側ノ鎧ヲ以テ敵刀ヲ右上方ニ摺リ上ケ敵ノ面(前臂、胴)ヲ斬撃ス

此動作ハ敵ノ進出量ニ應シ其場、進出、後退又ハ體轉シテ行フ

4、卷キ落シ突(面、前臂)

兩拳ヲ以テ小圓形ヲ畫ク如ク敵刀ヲ右前下方ニ卷キ落シ直ニ敵ノ喉

右ニ同シ

右ニ同シ

(面、前臂)ヲ刺突(斬撃)ス

此動作ハ敵ノ進出量ニ應シ適宜進退シテ行フ

5、片手右半面

敵ノ刺突セントスル起リ頭ニ乗シ體ヲ左ニ抜キツツ左片手ヲ以テ片手右半面斬撃ノ要領ニヨリ敵ノ右半面ヲ斬撃ス又體ヲ右ニ抜キツツ片手左半面斬撃ノ要領ニヨリ敵ノ左半面ヲ斬撃スルコトヲ得

片手半面斬撃ニ對スル變化ノ擊突法參照

其三 左片手ニテ前(表)ヨリ刺

突シ來ル場合

1、剩シ前臂

間合ヲ切リテ(左足ヨリ稍後方ニ退キテ)敵刀ヲ剩シ敵カ舊姿勢ニ復セントシ、右手ヲ柄ニ添ヘントスル頭ニ乗シ其前臂ヲ斬撃ス
此動作ハ敵ノ進出量ニ應シ適宜進退シテ行フ

2、流シ面(左胴)

我刀ノ左側ノ鎧ヲ以テ敵刀ヲ左後方ニ拂ヒ流シ直ニ敵ノ面(左胴)ヲ斬撃ス

此動作ニ於テ我レ拂ヒ流シタルトキハ敵ハ多クハ刀ヲ右ニ倒シ左拳

左片手ニテ右半面ヲ斬撃ス

刺突シタル儘迅速ニ敵ニ接近シテ爾後ノ處置ヲ取ルカ、或ハ速ニ間合ヲ切ルヲ要ス

ヲ上ケテ防勢ニ立ツカ或ハ直ニ左手ヲ引キ舊姿勢ニ復スルモノナリ前者ノ時ハ稍右前方ニ進出シテ左胴ヲ斬撃シ後者ノ時ハ直ニ進ミテ面ヲ斬撃ス

3、流シ突(入レ突)

兩手ヲ以テ刀ヲ引キツツ我刀ノ左側ノ鎧ヲ以テ敵刀ヲ左後方ニ押ヘ流シ直ニ敵ノ喉ヲ刺突ス
此動作ニ於テ我レ押ヘ流シタルトキ敵カ其手元ヲ上ケテ防キタル場合ハ其左拳ノ下方ヨリ刺突ス

其四 左片手ニテ裏ヨリ刺突

右ニ同シ

シ來ル場合

1、面(前臂)

敵ノ刺突セントスル起リ頭ニ乗シ面(前臂)斬撃ス
此動作ハ敵ノ刺突ヲ恐ルルコトナク斷乎トシテ行フヲ要ス

2、剩シ前臂

間合ヲ切リテ左足ヨリ稍後方ニ退キテ敵刀ヲ剩シ敵カ舊姿勢ニ復セントシ右手ヲ柄ニ添ヘントスル頭ニ乗シ其前臂ヲ斬撃ス

3、撃チ拂ヒ面(前臂)突

兩手ヲ以テ敵刀ヲ右前下方ニ撃チ

左片手右半面ヲ斬撃ス

迅速ニ間合ヲ切ルカ或ハ一舉ニ體當リヲナシ爾後

拂ヒ敵ノ面(前臂)ヲ斬撃ス(兩手裏突ノ要領ヲ以テ敵ノ喉ヲ刺突ス
撃チ拂ヒタル後敵カ右手ヲ柄ニ添ヘントスル頭ニ乘シ其前臂ヲ斬撃ス
此動作ニ於テ敵カ撃拂サレタルトキ間合ヲ切ルトキハ進出シテ左片手ニテ喉ヲ刺突スルカ或ハ左片手ニテ右半面ヲ斬撃ス

4、卷キ落シ面(突)
兩拳ヲ以テ小圓形ヲ畫ク如ク敵刀ヲ右前下方ニ卷キ落シ敵ノ面ヲ斬撃ス(兩手ヲ以テ敵ノ喉ヲ刺突ス)
此動作ハ敵ノ進退ニ應シ適宜進退

右ニ同シ

シテ行ヒ敵カ間合ヲ切ルトキハ進出シテ左片手ニテ喉ヲ刺突ス
右片手ニ刺突シ來ル場合ハ稀ニシテ偶々表ヨリ刺突シ來ル場合アルモ前記諸種ノ變化ノ撃突法ヲ應用スレハ可ナリ

第六 二段三段ノ撃突法

二段三段ノ撃突法ハ單一ノ斬撃ヲ連續シタルモノニシテ見セテ行フ(敵ヲ欺騙シテ行フ)撃突法トハ全然其性質ヲ異ニス即チ此動作ニ於テハ第一次ノ撃突モ第二次ノ撃突モ輕重アルヘ

最初ノ出頭ニ乘スルヲ要ス若シ之ニ遅レタル場合ハ第一本目ノ後ノ先ヲ取り更ニ遅レタル時ハ第二本目ノ出頭ニ乘シ或ハ第

カラス何レノ場合ト雖敵ニ機先ヲ制
セラレサル如ク注意スルヲ要ス
此動作ハ打撃或ハ押壓ヲ加ヘテ行フ
モ可ナリ

其一 面ヨリ起ル撃突法

1. 面……面

單一ノ斬撃(一)ノ要領ニヨリ敵ノ正
面ヲ斬撃シ更ニ同法ヲ連續ス
此動作ハ我敵ノ面ヲ斬撃スルトキ
敵カ刀尖ヲ下ケ或ハ其儘間合ヲ切
ル時ニ行フ

2. 面……前臂

單一ノ斬撃(一)ノ要領ニヨリ敵ノ正

五〇
二本目ノ後ノ先ヲ取ヲル
要ス

面ノ斬撃ニ對スル變化ノ
撃突法參照

面及前臂ノ斬撃ニ對スル

變化ノ撃突法參照

面ヲ斬撃シ更ニ前進、後退、或ハ體轉
シテ敵ノ前臂ヲ斬撃ス
此動作ニ於テ最初敵ノ面ヲ斬撃シ
タル時敵カ退イテ之ヲ防クカ或ハ
間合ヲ切りタル時ハ更ニ進ンテ其
前臂ヲ斬撃シ然ラサル時ハ多クノ
場合後退或ハ體轉シテ其前臂ヲ斬
撃ス

3. 面……胴

(一)ノ要領ニヨリ面ヲ斬撃シ更ニ前
進、後退、或ハ體轉シテ敵ノ右(左)胴ヲ
斬撃ス

此動作ハ面ヲ斬撃シテ體當リヲナ

面及胴ノ斬撃ニ對スル變
化ノ撃突法參照

シ敵ノ體勢ヲ崩シ稍右前方ニ進ミ
又ハ左足ヨリ後方ニ退キテ敵ノ右
(左)胴ヲ斬撃スルカ或ハ面ヲ斬撃シ
直ニ左足ヨリ大キク後方ニ退キツ
ツ敵ノ右(左)胴ヲ斬撃ス

4、面……右半面

(一)ノ要領ニヨリ面ヲ斬撃シ直ニ右
足ヲ後方ニ引クカ或ハ左足ヲ前ニ
出シテ半身姿勢トナルト同時ニ左
片手右半面斬撃ノ要領ニヨリ敵ノ
右半面ヲ斬撃ス

此動作ニ於テ面ヲ斬撃シタル後兩
手ヲ以テ右半面ヲ斬撃シタルトキ

ハ夫レヨリ直ニ右胴ヲ斬撃スルコ
トヲ得然ルトキハ三段ノ撃チ方ト
ナル

5、面……突

(一)ノ要領ニヨリ敵ノ面ヲ斬撃シ其
儘兩手或ハ左片手ヲ以テ敵ノ喉ヲ
刺突ス

此動作ハ我レ敵ノ面ヲ斬撃スルト
キ敵カ間合ヲ切ルカ或ハ上體ヲ後
方ニ引キテ我刀ヲ剩シタルトキ行
フ

其二 前臂ヨリ起ル撃突法

1、前臂……面(半面)

面及右半面斬撃ニ對スル
變化ノ撃突法參照

面及突ニ對スル變化ノ撃
突法參照

前臂及面(半面)ノ斬撃ニ對

(二)ノ要領ニヨリ敵ノ前臂ヲ斬撃シ直ニ進ミテ敵ノ面(右左)半面ヲ斬撃ス

此動作ハ右拳ヲ右ニ移動シテ鐳元ニテ防ク者又ハ右前下方ニ切り下ロシテ防ク者ニ對シテ行フモノニシテ敏捷ナル丈ケ夫レ丈ケ奏効スルコト多ク特ニ左足ノ遅レサル如ク注意スルヲ要ス

2. 前臂………胴

(二)ノ要領ニヨリ敵ノ前臂ヲ斬撃シ直ニ敵ノ左腋下ノ方向(左前方)ニ進ムト同時ニ敵ノ右胴ヲ斬撃ス

五十四
スル變化ノ擊突法參照

前臂及胴ノ斬撃ニ對スル變化ノ擊突法參照

此動作ハ我レ前臂ヲ斬撃スルトキ脱シ面ヲ行フ如キ敵ニ對シテ行フ場合多ク特ニ左足ノ遅レサル如ク注意スルヲ要ス

3. 前臂………前臂

(二)ノ要領ニヨリ敵ノ前臂ヲ斬撃シ更ニ續イテ前臂ヲ斬撃ス

此動作ハ第一本目不成功ノ時或ハ前臂ヲ斬撃スレハ常ニ手元ヲ上クル者又ハ第一本目ノ前臂ヲ防キテ油斷(安心)スル者等ニ對シテ行フ

4. 前臂………突

(二)ノ要領ニヨリ敵ノ前臂ヲ斬撃シ

前臂ノ斬撃ニ對スル變化ノ擊突法參照

前臂及突ニ對スル變化ノ擊突法參照

直ニ進ミテ兩手ヲ以テ敵ノ喉ヲ刺突ス

此動作ハ前臂ヲ斬撃スル際拳ヲ右ニ移動シテ防ク者或ハ右前下方ニ切リ下ロシテ防ク者或ハ脱シ面ヲ行フ者等ニ對シテ行フ但シ間合ヲ切リテ前臂ヲ脱ス者ニ對シテハ左片手ニテ刺突スルヲ要ス

5、前臂押へ右胴(前臂突)

(二)ノ要領ニヨリ敵ノ前臂ヲ斬撃シ直ニ敵刀ヲ其鏝元ニ近ク我刀ノ刀及ヲ以テ右前下方ニ押へ敵ノ押シ返へサントスル頭ニ乗シ左足ヨリ

前臂突及胴ノ斬撃ニ對スル變化ノ撃突法參照

後退シツツ(左前方ニ進ムト同時ニ)敵ノ右胴ヲ斬撃ス

此動作ニ於テ敵刀ヲ押ユルニ前臂ヲ斬撃シテ直ニ我刀ヲ敵刀ノ左側ニ廻シテ左前下方ニ押へ敵ノ押シ返ス頭ニ乗シ敵ノ前臂ヲ斬撃シ或ハ左(右)前方ニ進ミテ敵ノ右胴ヲ斬撃シ得ルコトアリ敵若シ押ヘラタル儘押シ返ササルトキハ直ニ敵ノ喉ヲ刺突ス

6、前臂………右半面

(二)ノ要領ニヨリ敵ノ前臂ヲ斬撃シ直ニ左足ヲ前ニ出スカ或ハ右足ヲ

前臂及半面ノ斬撃ニ對スル變化ノ撃突法參照

後方ニ引キ半身姿勢トナルト同時ニ右手ヲ離シ左片手ヲ以テ敵ノ右半面ヲ斬撃ス
此動作ハ刀尖ヲ下ケテ防ク者ニ對シテ行フ

其三 突ヨリ起ル撃突法

凡テノ撃突ハ突ヨリ起ルヲ可トスト言フ者アリ蓋シ突ハ人ノ最モ恐ルモノニシテ之ヲ以テ敵ヲ威嚇シ其ノ虚ニ乘シテ斬撃スルヲ有利トスル主義ヨリ言ヒシモノナラン此動作モ亦敵ニ機先ヲ制セラレサル如ク注意スルヲ要ス

敵ニ對シ右方ヨリ敵ノ喉ヲ刺突スルヲ表突ト云ヒ普通交叉ノ反對側即チ敵刀ノ右側ヨリ刺突スルヲ裏突ト云ヒ正面ヨリ眞直ニ刺突スルヲ前突ト云フ

1. 兩手前(表)突……正面
兩手前(表)突ノ要領ニヨリ敵ノ喉ヲ刺突シ直ニ續イテ正面ヲ斬撃ス
此動作ハ我レ敵ノ喉ヲ刺突スルトキ上體ヲ後方ニ引キテ我カ刺突ヲ剩スカ或ハ敵カ其刀ヲ以テ右(左)ニ我刀ヲ押ヘテ防キタル時行フモノニシテ敵ノ進退ニ應シ適宜進退シ

突及正面ノ斬撃ニ對スル變化ノ撃突法參照

テ行フ

兩手前突ヨリ右半面或ハ左半面(兩手ニテ)ヲ斬撃スル場合モ亦此要領ニ準シテ行フ

2. 兩手前(表)突……前臂(腕)

兩手前突ノ要領ニ準シ敵ノ喉ヲ刺突シ直ニ續イテ前臂ヲ斬撃ス

此動作ハ敵ノ進退ニ應シ適宜進退シテ行フモノニシテ我レ刺突スルトキ敵カ其刀ヲ以テ我刀ヲ右方ニ押ヘ防キタルトキ行フ敵若シ體ヲ後方ニ退キテ我カ刺突ヲ剩シタルトキハ敵刀ヲ打撃シテ前臂ヲ斬撃ス

突及右(左)半面斬撃ニ對スル變化ノ撃突法參照

突及前臂ノ斬撃ニ對スル變化ノ撃突法參照

3. 兩手前(表)突……兩手前(表)突

兩手前(表)突ノ要領ニヨリ敵ノ喉ヲ刺突シ直ニ同法ヲ連續ス

此動作ハ我レ刺突スルトキ敵カ體ヲ後方ニ退キテ剩シタルトキ行フモノニシテ最初ノ刺突後敵刀ヲ打撃(押壓)シテ第二ノ刺突ヲ行フコトアリ

4. 兩手裏突……正面

兩手裏突ノ要領ニヨリ敵ノ喉ヲ刺突シ直ニ續イテ敵ノ面ヲ斬撃ス
此動作ハ敵ノ進退ニ應シ適宜進退シテ行フモノニシテ多クノ場合敵

兩手前突ニ對スル變化ノ撃突法參照

兩手裏突及面ノ斬撃ニ對スル變化ノ撃突法參照

刀ノ左側ヨリ面ヲ斬撃ス

5、兩手裏突……：兩手前(表)突

兩手裏突ノ要領ニ依リ敵ノ喉ヲ刺突シ直ニ續イテ敵刀ノ左側ヨリ敵ノ喉ヲ刺突ス

此動作ハ敵カ我レノ裏突ヲ行フニ對シ之ヲ防キタル時行フ

6、兩手裏突……：大外刈

兩手裏突ノ要領ニヨリ敵ノ喉ヲ刺突シ敵カ油斷スルカ或ハ突キ脱シタルトキハ機ヲ逸セス大外刈ニテ敵ヲ倒シ直ニ其ノ虚ヲ斬撃スルカ或ハ組ミ伏セ面蒲團ノ頭部ノ後端

突ニ對スル變化ノ撃突法
參照

イ、兩手裏突ニ對スル變化ノ
撃突法參照

ロ、大外刈ニ出ル頭ヲ其足ヲ
取リテ倒スカ或ハ反對ニ
我ヨリ大外刈ニテ倒シ上
記ノ方法ヲ應用ス

ト面ノ前垂ニ手ヲ懸ケ面ヲ捻リテ
敵ノ喉ヲ縮ム

7、片手前(表)突……：正面

片手前(表)突ノ要領ニヨリ左片手ヲ以テ敵ノ喉ヲ刺突シ直ニ右手ヲ添ヘ十分ニ踏ミ込ミテ敵ノ面ヲ斬撃ス

此動作ハ敵カ間合ヲ切リテ我刺突ヲ脱シタルトキニ行フモノニシテ敵刀ヲ打撃シテ面ヲ斬撃スルコトアリ

8、片手前(表)突……：右半面

片手前(表)突ノ要領ニヨリ左片手ヲ

片手前突及正面ノ斬撃ニ
對スル變化ノ撃突法參照

片手前突及右半面斬撃ニ
對スル變化ノ撃突法參照

以テ敵ノ喉ヲ刺突シ直ニ左足ヲ前ニ出シ(右足ヲ後方ニ引キ)半身姿勢トナルト同時ニ片手右半面斬撃ノ要領ニヨリ敵ノ右半面ヲ斬撃ス此動作ハ敵カ其刀ヲ以テ我刺突スル刀ヲ其左方ニ押ヘテ防ク者或ハ我レ左片手ニテ刺突シ右手ヲ添エテ構刀ノ姿勢ニ復セントスルトキ我カ前臂ヲ斬撃スル者ニ對シテ行フ

9、片手前(表)突ヨリ打撃ヲ加ヘテ兩手前(表)突
片手前(表)突ノ要領ニヨリ左片手ヲ

片手前(表)突及兩手前(表)突ニ對スル變化ノ擊突法參照

以テ敵ノ喉ヲ刺突シ其刀ヲ引キツツ右手ヲ添ヘテ敵ノ刀ヲ打撃シ直ニ進ミテ兩手ヲ以テ敵ノ喉ヲ刺突ス
此動作ハ敵カ間合ヲ切リテ我刺突ヲ剩シタルトキ或ハ敵カ我刺突ヲ防キタルノミニテ返撃突ヲ行ハサル時行フ

以上ハ二段ノ擊突法ヲ示シタルモノニシテ狀況ニ應ジ此動作ヲ連続スルハ三段四段ノ擊突法ヲ行フコトヲ得

第七 見セテ(敵ヲ欺騙シテ)行フ擊突法

見セテ(敵ヲ欺騙シテ)行フ擊突法ハ上

位ノ者沈着剛膽ナル者機敏ナル者等ニ對シテハ却ツテ直ニ其機先ヲ制セラルルコトアルヲ以テ好ンテ行フヘキモノニアラス然レトモ常ニ防勢ニ立ツ者常ニ後ノ先ヲ擊突セントスル者或ハ神經過敏ナル者等ニ對シテハ成效スルコトアリ如何ナル場合ト雖刀ノミヲ以テ斬擊セントスル如ク裝ハス氣分モ之ニ伴ヒ迅速ニ行フヲ要ス

其一 面ニ見セテ行フ擊突法

1、面ニ見セ前臂

敵ノ面ヲ斬擊セントスル如ク動作

二段三段ノ擊突法ニ對スル變化ノ擊突法ト同シク以下示ス見セテ行フ擊突法ニ對シテハ機先ヲ制スルコトニ努力スルヲ要ス若シ機先ヲ制スルコト能ハサルトキハ本擊突ニ對スル變化ノ擊突法ヲ應用スルニ至ルヘシ

イ、出前臂

ロ、兩手(片手)前突

シ敵ノ之ニ應シテ兩手ヲ上ケ刀ヲ右斜ニ倒シテ防ク頭ニ乘シ其前臂ヲ斬擊ス

此動作ニ於テ前臂ヲ斬擊スル場合ニハ進ミテ行フコトアリ又退キテ行フコトアリ何レノ場合モ敵カ其刀ノ右側ノ鎗ヲ以テ防キタルトキハ多クハ不成功トナリ易シ

2、面ニ見セ胴

敵ノ面ヲ斬擊セントスル如ク十分ニ伸ヒテ動作シ敵ノ之ニ應シテ面ヲ防ク頭ニ乘シ敵ノ右左胴ヲ斬擊ス

ハ、切り抜ケ胴
ニ、前臂ノ斬擊ニ對スル變化ノ擊突法參照

イ、(1)ノ裏業(イ)(ロ)(ハ)參照
ロ、胴ノ斬擊ニ對スル變化ノ擊突法參照

此動作ハ特ニ迅速ヲ尙ヒ敵ノ進退ニ應シ適宜進退シテ行フ、胴ヲ斬撃スルニ折敷ヲナスコトアリ

3、面ニ見セ右(左)半面

敵ノ面ヲ斬撃セントスル如ク動作シ敵ノ之ニ應シテ面ヲ防ク頭ニ乗シ兩手(片手)ヲ以テ敵ノ右(左)半面ヲ斬撃ス

此動作ハ進出シテ行フ場合多ク左片手ヲ以テ行フ時ハ右足ヲ後方ニ引クカ或ハ左足ヲ前ニ出シテ行フ而シテ敵カ其刀ノ右側ノ鎧ヲ以テ防キタル時ハ左半面ヲ左側ノ鎧ヲ

イ、(1)ノ裏業(イ)(ロ)(ハ)参照
ロ、右(左)半面斬撃ニ對スル變化ノ擊突法参照

4、面ニ見セ前突

以テ防キタルトキハ右半面ヲ斬撃ス敵ノ面ヲ斬撃セントスル如ク動作シ其儘刀尖ヲ僅ニ下ケ兩手ヲ以テ敵ノ喉ヲ刺突ス

此動作ハ敵カ體ヲ後方ニ退キテ我刀ヲ剩シタルトキハ特ニ有利ニシテ進ミテ行フモノトス敵カ著シク間合ヲ切リタル時ハ左片手ニテ刺突スルコトアリ

イ、(1)ノ裏業参照
ロ、兩手前突ニ對スル變化ノ擊突法参照

其二 前臂ニ見セテ行フ擊突法

1、前臂ニ見セ面

面ノ斬撃ニ對スル變化ノ擊突法参照

敵ノ前臂ヲ斬撃セントスル如ク動作シ敵ノ之ニ應シテ前臂ヲ防ク頭ニ乘シ進ミテ敵ノ面(右半面)ヲ斬撃ス此動作ニ於テ面ヲ斬撃スル場合ハ右前方ニ進出シテ斬撃スルヲ有利トスルコトアリ

2、前臂ニ見セ突
擔イテ前臂ニ見セ敵ノ之ニ應シテ其前臂ヲ防ク頭ニ乘シ直ニ進ミテ面或ハ右半面ヲ斬撃スルコトアリ
敵ノ前臂ヲ斬撃セントスル如ク動作シテ敵ノ之ニ應シテ前臂ヲ防ク頭ニ乘シ敵刀ノ下ヨリ我刀ヲ脱シ

イ、片手(兩手)前突
ロ、左片手右半面
ハ、突ニ對スル變化ノ擊突法
參照

進出シテ兩手ヲ以テ敵刀ノ左側ヨリ其喉ヲ刺突ス

此動作ヲ欺騙シテ行ヒ更ニ前臂ヲ斬撃スルコトアリ然ルトキハ前臂ニ見セ更ニ間合ニ深く入りテ喉ヲ刺突セントスル如ク大キク見セ敵ノ之ニ應シテ突ヲ防ク頭ニ乘シ左足ヨリ後方或ハ左後方ニ退キツツ前臂ヲ斬撃ス

イ、面
ロ、胴(切り抜クルヲ可トス)
ハ、前臂ノ斬撃ニ對スル變化ノ擊突法參照

3、前臂ニ見セ胴

敵ノ前臂ヲ斬撃セントスル如ク動作シ敵ノ之ニ應シ前臂ヲ防ク頭ニ乘シ右前方ニ進出シテ敵ノ左胴ヲ

イ、兩手前突
ロ、右片手左半面
ハ、胴ノ斬撃ニ對スル變化ノ擊突法參照

斬撃ス

敵カ脱シ面ヲ行ハントスル時ハ左
右何レノ胴ヲモ斬撃スルコトヲ得
レトモ鐔元ニテ防クカ或ハ刀尖ヲ
下ケテ防キタルトキハ右前方ニ進
出シ體ヲ稍低クシテ左胴ヲ斬撃ス

4、前臂ニ見セ右半面

敵ノ前臂ヲ斬撃セントスル如ク動
作シ敵ノ之ニ應シ前臂ヲ防ク頭ニ
乗シ左足ヨリ左前方ニ進ミ或ハ右
足ヲ左後方ニ引キ半身姿勢トナル
ト同時ニ左片手ヲ以テ敵ノ右半面
ヲ斬撃ス

イ、切リ抜ケ胴

ロ、右半面斬撃ニ對スル變化
ノ擊斬法參照

5、前臂ニ見セ右ニ擊拂シテ前臂

敵ノ前臂ヲ斬撃セントスル如ク我
刀ヲ敵刀ノ中央附近迄撃チ下ロシ
敵刀ヲ右ニ擊拂シテ直ニ敵ノ前臂
ヲ斬撃ス

イ、敵カ擊拂スルトキ其刀ヲ
卷キ落ス如ク撃チ返シ面
又ハ前臂ヲ斬撃シ或ハ喉
ヲ刺突ス

ロ、片手右半面

6、前臂ニ見セ右ニ擊拂シテ面

此動作ハ敵カ鐔元或ハ刀尖ヲ下ケ
テ其前臂ヲ防ク時應用シテ利アリ
前項ノ要領ニヨリ擊拂シタル後敵
ノ刀ノ返ル頭ニ乗シ右前方ニ進出
シテ敵ノ面ヲ斬撃ス

イ、(5)ノ裏業參照

ロ、面ノ斬撃ニ對スル變化ノ
擊突法參照

其二 胴ニ見セテ行フ擊突法

1、胴ニ見セ面

イ、擔ク頭ニ乗シ面又ハ前臂

擔イテ敵ノ胴ヲ斬撃セントスル如ク動作シ敵ノ之ニ應シテ胴ヲ防ク頭ニ乗シ十分ニ踏ミ込ミテ敵ノ面ヲ斬撃ス

2、胴ニ見セ右半面

擔イテ敵ノ面ヲ斬撃セントスル如ク動作シ敵ノ之ニ應シテ胴ヲ防ク頭ニ乗シ兩手ヲ以テ敵ノ右半面ヲ斬撃ス

此動作ハ刀尖ヲ下ケテ胴ヲ防ク者ニ對シテ行フ

其四 突ニ見セテ行フ撃突法

1、突ニ見セ面

ヲ斬撃ス
ロ、面ノ斬撃ニ對スル變化ノ撃突法參照

イ、擔ク頭ニ乗シ面又ハ前臂ヲ突撃ス
ロ、兩手右半面ノ斬撃ニ對スル變化ノ撃突法參照

イ、裏突ニ見セル頭ニ乗シ面

兩手ヲ以テ敵ノ前表或ハ裏ヨリ喉ヲ刺突セントスル如ク動作シ敵ノ之ニ應シテ喉ヲ防ク頭ニ乗シ更ニ進ミテ敵ノ面ヲ斬撃ス
此動作ハ右半面ニモ變化スルコトヲ得

2、突ニ見セ前臂

兩手前表突ノ要領ニヨリ敵ノ喉ヲ刺突セントスル如ク動作シ敵ノ之ニ應シテ突ヲ防ク頭ニ乗シ敵ノ前臂ヲ斬撃ス

此動作ハ我刀尖ヲ敵刀ノ周圍ニ廻ス如ク敵刀ノ上ヨリ下ニ廻シ間合

又ハ前臂ヲ斬撃ス
ロ、面ノ斬撃ニ對スル變化ノ撃突法參照

前臂ノ斬撃ニ對スル變化ノ撃突法參照

ニ深く入りテ敵刀ノ左側ヨリ其喉ヲ刺突セントスル如ク大キク動作シ同時ニ左後方或ハ後方ニ退キツ敵ノ前臂ヲ斬撃スルコトアリ

3、裏突ニ見セ前(表)突

両手ニテ敵ノ裏ヨリ其喉ヲ刺突セントスル如ク動作シ敵ノ之ニ應シテ刀尖ヲ右前方ニ下クルカ或ハ刀ヲ右ニ移動シテ突ヲ防キタルトキハ直ニ進ミテ前(表)ヨリ敵ノ喉ヲ刺突ス

4、前(表)突ニ見セ裏突

両手前(表)突ノ要領ニ依リ敵ノ喉ヲ

イ、敵ノ見セル頭ニ乗シ面右

半面)又ハ前臂ヲ斬撃シ或

ハ喉ヲ刺突ス

ロ、両手前(表)突ニ對スル變化ノ撃突法参照

裏突ニ對スル變化ノ撃突法参照

刺突セントスル如ク動作シ敵ノ之ニ應シテ防ク頭ニ乗シ更ニ進ミテ裏ヨリ敵ノ喉ヲ刺突ス
此動作ハ我刀ヲ敵刀ノ上ヨリ表ニ廻シテ前(表)突ニ見セ敵ノ之ニ應シテ防ク頭ニ乗シ裏ヨリ刺突スルコトアリ尙此外(3)(4)ノ動作ヲ連結シテ構成シタルモノアリ例ヘハ裏突ニ見セ更ニ前(表)突ニ見セ裏突ヲナスカ如シ

5、裏突ニ見セ片手前(表)突

両手ニテ敵ノ裏ヨリ其喉ヲ刺突セントスル如ク動作シ敵ノ之ニ應シ

イ、敵ノ見スル頭ニ乗シ面、前

臂或ハ右半面ヲ斬撃シ又

ハ喉ヲ刺突ス

テ防ク頭ニ乗シ左片突ヲ以テ前(表)ヨリ敵ノ喉ヲ刺突ス

此動作ハ敵カ我裏突ニ應シ兩手ヲ右前下方ニ進メテ防キタル儘間合ヲ切ルカ如キ者ニ對シテ行フ以上ノ外見セテ行フ擊突法ト單一ノ擊突或ハ二段三段ノ擊突法トヲ連結シテ行フ擊突法アリ例ヘハ面ニ見セ前臂ヨリ正面、前臂ヨリ面ニ見セ胴等ノ如シ

第八 打撃或ハ押壓シテ行フ擊突法

打撃或ハ押壓シテ行フ擊突法ハ動モスレハ非實戰的ニ流レ易ク機敏ナル

打撃或ハ押壓シテ行フ擊突法ニ對シテハ凡テ機先

ロ、片手前(表)突ニ對スル變化ノ擊突法參照

敵ニ對シテハ却ツテ機先ヲ制セララルコトアリ之カ爲メ一部ノ劍道教師ハ敵ノ刀ヲ打撃押壓スルハ絶對ニ不可ナリト言フモノアリ然レトモ攻撃動作ノ一法タルヲ失ハス即チ敵ノ構ヘ堅固ニシテ他ニ攻撃ノ手段ナキトキハ敵ノ刀ヲ打撃或ハ押壓シテ其構ヘヲ崩シ攻撃ノ機會ヲ發見シ之ニ乘シテ擊突シ得ルヲ以テナリ打撃或ハ押壓シテ行フ擊突ハ打撃或ハ押壓シタル後以上記載セシ總テノ擊突法ヲ應用シ得ルヲ以テ此ニ之ヲ省略セリ

ヲ制スルコトニカムルヲ要ス若シ機先ヲ制スルコト能ハサルトキハ打撃或ハ押壓シタル後行フ擊突法ニ對スル變化ノ擊突法ヲ應用スルヲ要ス

第九 接近シテ行フ撃突法

彼我接近シタル場合ハ常ニ氣分ヲ以テ敵ヲ制壓スルノ心懸ケナカルヘカラス特ニ敵ノ眼、手元、足元ニ注意スルコト肝要ナリ其他敵ノ刀ヲ我肩若クハ頸等ニ觸レシメス又手元ヲ押ヘラレサル如ク注意シ速ニ敵ヲ斬撃スルノ手段ヲ取ルカ或ハ間合ヲ取ル方法ヲ講セサルヘカラス

其一 彼我鏢糶リ合ヒノ場合

1、退キ面

左足ヨリ後方ニ退キツ、敵ノ面ヲ

イ、摺リ上ケ面(胴)

ロ、切り抜ケ胴

斬撃ス

此動作ハ敵ノ油斷ヲ發見スルカ或ハ大上段ニ振り被リ敵ヲ威嚇シ敵ノ刀尖ノ位置ニヨリテ左足ヨリ後退シツ、斬撃ス敵ヨリ我ヲ押ス等シテ間合ヲ取ラントスル時ニモ亦應用スルヲ得

2、退キ胴

イ、敵ノ手元ヲ我手元ヲ以テ敵ニ覺ラレサル如ク前方或ハ斜下方ニ押シ敵之ヲ押シ返サントシ其臂ノ伸ブ頭ニ乗シ左足ヨリ後方ニ退キツ、我手元ヲ敵ノ手元ヨリ

胴ノ斬撃ニ對スル變化ノ撃突法參照

著シク雖スコトナク我刀ヲ敵ノ體ニ近ク經過セシメ敵ノ右胴ヲ斬撃ス

此動作ハ敵カ我體ヲ押シ離シ間合ヲ取ラントスルトキニモ亦應用スルコトヲ得

ロ、兩前臂ヲ交叉スル如ク刀ヲ我左方ニ倒シツツ兩拳ヲ上ケテ敵ノ手元ヲ上方ニ誘ヒ上ケ左足ヨリ後方ニ退キツ、體ヲ右(左)方ニ披キツ、敵ノ右胴ヲ斬撃ス

此動作ハ特ニ圓滑迅速ナルヲ要ス

イ、敵ノ手元ヲ上クル頭ニ乘シ右胴ヲ斬撃ス

ロ、胴ノ斬撃ニ對スル變化ノ撃突法參照

ハ、刀ヲ握リタル儘我左拳ヲ以テ敵ノ右前臂或ハ柄ヲ強ク右方ニ押スト同時ニ左足ヨリ後方ニ退キツツ(左足ヲ左前方ニ出シ)兩拳ヲ敵ノ手元ヨリ著シク離スコトナク我刀ヲ敵ノ體ニ近ク經過セシメ敵ノ右胴ヲ斬撃ス

3、右半面ヨリ右胴

兩腕關節ノ作用ニ依リ(兩拳ヲ左ニ捻轉ス)刀尖ヲ以テ頭上ニ圓形ヲ畫ク如ク刀及ヲ斜右下方ニ向ハシメツツ刀ヲ左方ニ廻シテ敵ノ右半面ヲ斬撃シ直ニ續イテ左足ヨリ後退

イ、敵カ右半面ヲ斬撃スル頭ニ乘シ折敷シテ胴ヲ斬撃ス
ロ、胴ノ斬撃ニ對スル變化ノ撃突法參照

シツツ敵ノ右胴ヲ斬撃ス
此動作ハ最初ノ右半面成功セサル
コトアリ敵若シ右半面ヲ受ケタル
場合ハ直ニ右胴ヲ斬撃ス又右半面
ヨリ續イテ左半面ヲ斬撃シ直ニ右
胴ヲ斬撃スルコトアリ

4、退キ前臂

イ、我刀ノ鏝元ニ近キ部位ヲ以テ敵
ノ刀ヲ左前方又ハ左方ニ輕ク押
シ敵ノ之ニ應シテ其刀ヲ返ス頭
ニ乗シ左足ヨリ後方ニ退キツツ
敵ノ前臂ヲ斬撃ス

ロ、我刀尖ニ近キ部位ヲ以テ敵刀ヲ

イ、應シ前臂

ロ、左片手右半面

ハ、撃チ拂ヒ面

イ、(イ)ノ裏業参照

其鏝元ニ近ク表ヨリ押ヘテ後退
セントスルトキ敵之ニ抵抗シ押
シ返サントスルトキハ其頭ニ乗
シ前臂ヲ斬撃ス(斜ニ切り下ロス
モ可ナリ)

ハ、敵我刀ノ左方ヨリ鏝元ヲ押ヘテ
間合ヲ取ラントスルトキハ機ヲ
逸セス敵刀ヲ脱シ前臂(左片手ニ
テ左半面)ヲ斬撃ス(喉ヲ刺突ス)
ニ、敵我手元ヲ押ユルコトナク我ヲ
押シ間合ヲ取ラントシテ後方ニ
退ク時ハ直ニ前臂ヲ斬撃ス
以上述ヘシ退キ前臂ヨリ更ニ進ミ

ロ、敵ノ押ヘル刀ヲ脱シテ前
臂ヲ斬撃スルカ或ハ兩手
ヲ以テ裏ヨリ喉ヲ刺突ス
ハ、前臂ノ斬撃及喉ノ刺突ニ
對スル變化ノ撃突法参照
イ、前臂ノ斬撃ニ對スル變化
ノ撃突法参照

テ面(半面)手ヲ斬撃シ或ハ喉ヲ刺突
シ得ルコトアリ

5、片手前突

敵我ヲ押シ間合ヲ取り其止マリタ
ル頭ニ乗シ左片手ヲ以テ敵刀ノ左
側ヨリ喉ヲ刺突ス

其一一 彼我其刀ヲ以テ互ニ右
臂ヲ押ヘタル場合

斯クノ如キ場合ヲ構成セサル如ク努
メサルヘカラサルモ敵ヨリ斯クノ如
キ場合ヲ構成シタルトキハ次ニ示ス
方法ニヨリ撃突スルヲ要ス

1、片手右半面

片手前突ニ對スル變化ノ
撃突法參照

片手右半面斬撃ニ對スル

變化ノ撃突法參照

我ヨリ輕ク敵ノ右前臂ヲ押ヘタル
トキ敵亦我前臂ヲ押シ返ス頭ニ乗
シ或ハ敵ヨリ我右前臂ヲ押ヘテ間
合ヲ取ラントスルトキハ右手ヲ離
シ右足ヲ後方ニ引ク(左足ヲ前ニ出
ス)ト同時ニ敵ノ右半面ヲ斬撃ス

2、兩手前突

敵ヨリ間合ヲ取ラントスル時或ハ
我ヨリ僅ニ後方ニ退キツツ我刀ヲ
敵刀ノ下ヨリ敵ノ表ニ廻シ進出シ
テ敵ノ喉ヲ刺突ス

3、退キ前臂

我手元ヲ僅ニ右上方ニ上ケ敵刀ヲ

兩手前突ニ對スル變化ノ

撃突法參照

イ、片手右半面

ロ、應シ前臂

脱シ同時ニ我刀ノ右側ヲ以テ敵刀ヲ右方ニ押シ左足ヨリ後退シツツ

敵ノ前臂ヲ斬撃ス

彼我接近シタル場合ハ以上ノ外種々アリト雖多クハ非實戰的ニシテ好シテ行フヘキモノニアラス即チ接近シテ行フ撃突法ノ初メニ於テ説明シタル如ク敵刀ヲ我身體ニ觸レシメサルコト肝要ナルヲ以テ若シ接近シタル場合ハ努メテ其一ノ場合ノ如ク構成スルヲ要ス

ハ、敵ノ押スヲ反對ニ押シ返シテ前臂ヲ斬撃ス

第二部 銃劍術應用動作

凡テ試合ニ在リテハ兩手軍刀術ニテ右拳ヲ攻ムル如ク銃劍術ニ於テモ亦敵ノ左拳ヲ攻ムルコト肝要ナリ即チ敵ノ左拳ノ動搖ニ從ツテ其ノ劍尖モ亦動搖シ刺突ノ機會ヲ發見スルコトヲ得ルモノナレバナリ換言スレハ我が刺突ニ便ナル如ク敵ノ劍尖ヲ導カサルヘカラス尙此ノ外敵ノ手元ノ強弱姿勢及間合等ハ刺突ニ大ナル關係ヲ有スルモノナリ又敵ノ刺突ニ應スル場合ニ在リテハ劍尖ヲ敵ノ人身巾以外ニ動搖セシメサルコト最モ肝要ナリ

第一 單一ノ刺突

直突、脱突、下突、喉ノ刺突

裏業

基本動作ニ於テ其ノ方法ヲ修得シタルト雖モ機會ヲ加味シアラサルヲ以テ直ニ之ヲ試合ニ應用スルコト困難

- 1、右ノ返突
- 2、左ノ返突
- 3、下ノ返突

ニシテ次ニ示ス如キ機會ヲ發見シ之
 ニ乗スルニアラサレバ奏効確實ナラ
 ス
 1、敵ノ劍尖動搖シタルトキ
 2、氣或ハ術ヲ以テ敵ヲ攻メ其ノ萎縮
 シタルトキ
 3、敵ノ術ノ止リタルトキ
 4、敵カ止心ノ状態ニアルトキ
 5、敵我ヲ刺突セントスル起リ頭
 6、敵ノ進出或ハ後退セントスル時機
 以上ノ如ク多ノ機會ヲ示シタリト雖
 其ノ刺突法適當ナラサレハ奏効困難
 ナリ即チ單一ノ刺突ハ多クノ場合遠間

ヨリ刺突シ成效スルコト稀ニシテ敵
 ノ左拳ヲ攻メ間合ヲ測リ前述ノ機會
 ニ乗シ速ニ刺突スルニアラサレハ奏
 効確實ナラス而シテ刺突法モ亦基本
 動作ノ要領ニ依ルノ外劍尖ヲ敵ノ手
 元ニ近ク經過セシメ稍左前方ニ進出
 シテ刺突シ或ハ我手元ヲ少シク上ケ
 敵ノ劍上ヨリ刺突シ或ハ著シク兩手
 ニ力ヲ加ヘテ刺突スル等種々ノ方法
 アリ要ハ敵ノ構備如何ヲ顧慮シ其ノ
 時ノ狀況ニ應シ刺突セサルヘカラス
 第二 敵我左拳ノ右上方ヨリ刺突シ來ルトキ
 之 應スル變化ノ刺突法

基本動作ノ要領ニヨリ適宜進退シテ行フノ外左ノ方法アリ

1、體ヲ左ニ轉シテ行フ右ノ返突
左足ヲ僅ニ左ニ出スト同時ニ突キ出シタル敵ノ銃ヲ卷キ落ス如ク右前下方ニ押壓シ(拂ヒ)右足ヲ定距離ノ所ニ移スト同時ニ敵ノ上脰ヲ刺突ス

此動作ニ於テ敵ノ劍ヲ押壓スル力長キトキ又ハ拂フ力長キトキハ刺突不確實トナルヲ以テ我劍尖ヲ著シク下クルコトナク強ク短ク押壓スル(拂フ)ヲ要ス

拂ハレタルトキハ直ニ兩手ヲ上ケ劍尖ヲ下ケ敵ノ銃ヲ掬ヒ上クル如ク下ヨリ上ニ壓シ迅速ニ手元ニ附ケ入り體當リヲナシテ敵ノ體勢ヲ崩シ第二ノ刺突ヲ行フ

卷落シノ説明

右手ヲ右前上方ニ進メ兩手ヲ以テ敵ノ突キ出ス銃ヲ下ヨリ掬ヒ上クル如ク僅ニ上ケ更ニ右拳ヲ我體ニ近ク引キツケ左拳ハ右ニ捻轉シテ稍下方ニ下ケ敵ノ銃ヲ下方ニ押壓ス

2、體ヲ後方ニ退キテ行フ右ノ返突
右足ヨリ後方ニ退キツ、突キ出ス敵ノ銃ヲ卷キ落ス如ク右前下方(下方)ニ押壓シ(拂ヒ)直ニ敵ノ上脰ヲ刺突ス

此ノ動作ニ於テモ亦(1)ノ場合ト同

(1)ノ場合ノ裏業ニ同シ

要領ニヨリ強ク短ク押壓スル(拂フ)ヲ要ス

何レノ場合ニ於テモ敵ノ銃ヲ拂ヒタルトキ敵カ兩手ヲ上ケ其儘直ニ接近スルカ或ハ體當リヲナストキハ上胴ヲ刺突スルコト困難ナルヲ以テ適宜後退シテ下胴ヲ刺突スルカ或ハ敵ノ刺突スル起リ頭ニ乗シ我手元ヲ僅ニ上ケ劍ヲ以テ敵ノ手元ニ近キ部位ヲ其ノ上ヨリ押ユル如ク兩手ニ力ヲ加ヘ強ク突キ出シ敵ノ上胴ヲ刺突スルヲ要ス
若シ返突シ得スシテ體當リヲ受ケ

ントスルヤ右足ヨリ左方ニ引キ體ヲ左ニ披キテ敵ノ體ヲ剩シ爾後ノ處置ヲナスヲ要ス

3. 體ヲ左ニ轉シテ行フ下突

左足ヨリ左方ニ出テ體ヲ十分ニ左ニ披キ敵ノ劍ヲ剩スト同時ニ敵ノ下胴ヲ刺突ス

第三 敵我左拳ノ左上方ヨリ刺突シ來ルトキ之ニ應スル變化ノ刺突法

基本動作ノ要領ニ依リ適宜進退シテ行フノ外左ノ方法アリ

1. 體ヲ後方ニ退キテ行フ左ノ返突

イ、拂ハルルヤ其ノ儘速ニ體

右足ヨリ後方ニ退キツツ右拳ヲ右
前上方ニ進メ左拳ハ右拳ノ運動ニ
伴ヒテ僅ニ左前下方ニ進メ敵ノ銃
ヲ左下方ニ拂ヒ敵ノ上脰ヲ刺突ス
此動作ハ敵ノ進出量ニ應シ拂ヒタ
ル後其ノ場進出後退シテ刺突ス
敵若シ拂ハレタル儘左肩ヲ出シ接
近スルカ或ハ體當リヲナストキハ
喉ヲ刺突スルヲ有利トス
若シ返突不可能ニシテ敵ノ體當リ
ヲ受ケントスルヤ右足ヲ右前方ニ
進メ體ヲ右ニ披キ右手ヲ以テ銃把
ヲ握リタル儘ニテモ可ナリ敵ノ體

九六
當リヲナシ敵ノ體勢ヲ崩
シ第二ノ刺突ヲ行フ
リ、拂ハルルヤ直ニ敵ノ左拳
ノ右上方ヨリ上脰ヲ刺突
ス

ヲ後方ヨリ押シ敵ノ振り向ク頭ニ
乗シ上脰ヲ刺突ス

2、劍上ノ脱突

敵我ヲ刺突セントスル起リ頭ニ乗
シ敵ノ劍上ヨリ脱ス氣味ヲ以テ我
手元ヲ上ケ敵ノ上脰ヲ刺突ス

此動作ハ喉ヲ刺突スルモ亦可ナリ

3、右ノ返突ニ變化スル方法

敵ノ刺突ト同時ニ我劍ヲ敵ノ劍下
ヨリ左方ニ廻シ右ノ返突ノ要領ニ
ヨリ上脰ヲ刺突ス

此動作ハ敵我ノ左拳ニ近ク刺突シ
來ルトキハ困難ナリ

第四 敵我左拳ノ下方ヨリ刺突シ來ルトキ
之ニ應スル變化ノ刺突法

1、基本動作ノ要領ニ依リ行フノ外同
要領ニヨリ敵ノ突キ出ス銃ヲ拂ヒ
劍尖ヲ一且刺突部ニ向ハシムルコ
トナク直ニ敵ノ上脰ヲ刺突ス
此動作ハ敵我左拳ノ左上方ヨリ刺
突シ來ルトキニモ亦應用スルコト
ヲ得而シテ敵ノ進出量ニ應シ適宜
進退シテ行フ

2、直突

敵ノ突キ出サントスル頭ニ乗シ僅

イ、拂ハルルヤ其ノ儘速ニ體
當リヲナシ敵ノ體勢ヲ崩
シ第二ノ刺突ヲ行フ
ロ、拂ハルルヤ直ニ上脰(喉)ヲ
刺突ス

ニ左前方ニ進出スルト同時ニ敵ノ
上脰(喉)ヲ刺突ス

第五 敵我喉ヲ刺突シ來ルトキ之ニ應スル
變化ノ刺突法

敵我喉ヲ刺突シ來ルトキハ右(左)ノ返
突ノ要領ニヨリ敵ノ銃ヲ適宜右或ハ
左ニ擊拂或ハ押壓シテ上脰又ハ下脰
ヲ刺突ス

第六 打撃或ハ押壓シテ行フ刺突法

打撃或ハ押壓シテ行フ刺突ハ敵ノ構

備ノ如何即チ左臂ノ伸度、劍ノ強弱、劍尖ノ位置等ニヨリテ各其ノ方法ヲ異ニナルモ多クノ場合我劍尖ニ近キ部位ヲ以テ敵ノ手元ニ近キ部位ヲ打撃又ハ押壓スルヲ可トス而シテ手元弱キ者ニ對シテハ打撃又ハ押壓シタル方向ヨリ手元堅キモノニ對シテハ打撃又ハ押壓シタル反對方向ヨリ刺突スルヲ有利トス殊ニ敵ノ進ミ或ハ退ク頭ニ乘シテ打撃又ハ押壓シ迅速ニ刺突スルトキハ奏効確實ナルコト多シ

1、打テ突ケ

イ、打撃スル頭ヲ反對ニ打チ

兩手ノ作用ヲ以テ(主トシテ右手ヲ以テ)以下同シ(敵ノ銃ヲ右前下方ニ打チ拂ヒ直ニ進出シテ敵ノ上脛ヲ刺突ス

此方法ニハ打撃シテ直チニ刺突スル法ト打撃シツツ刺突スル法トノ二アリ何レモ踏ミ切リツツ打撃スルヲ要ス

2、打テ脱セ

兩手ノ作用ヲ以テ敵ノ銃ヲ右前下方ニ打チ拂ヒ敵ノ銃ヲ返ス頭ニ乘シ進出シテ敵ノ左拳ノ左上方ヨリ上脛ヲ刺突ス

返シ敵ノ上脛ヲ刺突ス

ロ、兩手ヲ以テ銃ヲ後方ニ引キ打撃スル敵ノ劍ヲ脱シ

上脛(喉)ヲ刺突ス

ハ、右ノ返突

イ、打テ突ケノ裏業(イ、ロ)參照

ロ、左ノ返突

ハ、敵ノ打撃ヲ受クルヤ直ニ

上脛ヲ刺突ス

此動作ハ手元堅キ敵ニ對シ多ク成効ス

3、打テ下ヲ突ケ

(2)ト同要領ニ依リ敵ノ左拳ノ下方ヨリ下胴ヲ刺突ス

此動作ハ手元堅キモノ又ハ左臂ヲ前ニ伸シテ構ヘタルモノニ對シテ多ク成効ス

4、左ヨリ打テ突ケ

基本動作左ノ返突ノ要領ニ準シ敵ノ銃ヲ左下方ニ打チ拂ヒ直ニ進ミテ敵ノ上胴(喉)ヲ刺突ス此動作ハ敵ノ劍尖左方ニ偏シアルトキ行フモノ

イ、打テ突ケノ裏業(イ、ロ)參照
ロ、敵ノ打撃ヲ受クルヤ直ニ上胴ヲ刺突ス
ハ、下ノ返突

イ、打撃スル頭ヲ反對ニ押シ返シ敵ノ上胴ヲ刺突ス
ロ、劍ヲ下ルト同時ニ銃ヲ後方ニ引キ打撃スル敵ノ劍ヲ脱シ上胴ヲ刺突ス

ハ、左ノ返突

ノニシテ深ク踏ミ込ミ過クレハ却ツテ成効セサルコトアリ又打撃強キニ失スルトキモ成効セサルコトアリ要ハ敵ノ劍ノ強弱精神状態等ヲ顧慮シテ行フヲ要ス

5、左ヨリ打テ脱セ

(4)ト同法ニヨリ左ヨリ打撃シ敵ノ銃ヲ返ス頭ニ乗シ進出シテ敵ノ左拳ノ右上方ヨリ上胴ヲ刺突ス

此動作ハ手元堅キ敵ニ對シテ多ク成効ス

6、押セ突ケ

兩手ノ作用ヲ以テ敵ノ銃ヲ右前下

イ、左ヨリ打テ突ケノ裏業參照

ロ、右ノ返突

(1)ノ裏業參照

方ニ壓押シ直ニ進ミテ敵ノ上胴(喉)ヲ刺突ス

此動作ハ手元弱キ敵ニ對シ成効ス此ノ外我手元ヲ強クシテ敵ノ銃ヲ輕ク押シツツ速ニ深ク間合ニ入り敵ノ銃ヲ押シタル儘上胴ヲ刺突スル法アリ然レトモ此動作ハ眞銃ニテハ劍鏢ノ龍鼻互ニ相鉤シテ刺突困難ナルコトアリ

7、押セ脱セ

(6)ト同法ニヨリ敵ノ銃ヲ右前下方ニ押壓シ其ノ銃ヲ返ス頭ニ乗シ進出シテ敵ノ左拳ノ左上方ヨリ上胴

(2)ノ裏業参照

ヲ刺突ス

此動作ハ手元堅キ者ニ對シ成効ス

8、押セ下ヲ突ケ

(6)ト同法ニヨリ敵ノ銃ヲ右前下方ニ押壓シ其ノ銃ヲ返ス頭ニ乗シ進出シテ敵ノ左拳ノ下方ヨリ下胴ヲ刺突ス

(3)ノ裏業参照

此動作ハ手元堅キモノ又ハ左臂ヲ前ニ伸シテ構ヘタルモノニ對シ多ク成功ス

9、左ヨリ押セ突ケ

間合ニ入りツツ敵ノ銃ヲ其ノ左側ヨリ左前下方ニ押壓シ直ニ進ミテ

イ、敵ノ押ス頭ニ乗シ其劍ヲ脱シ直ニ敵ノ左拳ノ右上方ヨリ上胴ヲ刺突ス

上脰(喉)ヲ刺突ス

此動作ハ多クハ手元弱キモノニ對シテ行フ

10、左ヨリ押セ脱セ

我劍尖ニ近キ部位ヲ以テ敵ノ銃ヲ左前下方ニ押壓シ敵ノ銃ヲ返ス頭ニ乘シ進出シテ敵ノ左拳ノ右上方ヨリ上脰ヲ刺突ス

此動作ハ手元堅キカ又ハ左臂ヲ前ニ伸シテ構ヘタルモノニ對シテ行フ

ロ、押壓スル頭ヲ反對ニ押シ返シ上脰ヲ刺突ス
ハ、左ノ返突
イ、(9)ノ裏業(イ、ロ)參照
ロ、右ノ返突

第七 二段三段ノ刺突法

二段三段ノ刺突法ハ見セテ行フ刺突法トハ全然其ノ性質ヲ異ニス即チ二段三段ノ刺突ハ第一ノ刺突モ第二ノ刺突モ亦第三ノ刺突モ必勝ヲ期シテ確實ニ刺突スルヲ要ス

何レノ場合ト雖敵ニ機先ヲ制セラレサル如ク注意セサルヘカラス此動作ハ多クハ防勢ニ立ツ者ニ對シテ有利ナリ

1、直突……直突

單一ノ刺突(一)ノ要領ニヨリ敵ノ左拳ノ右上方ヨリ上脰ヲ刺突シ更ニ進ミテ同法ヲ連續ス

敵我左拳ノ右上方ヨリ刺突シ來ルトキ之ニ應スル變化ノ刺突法參照

此動作ハ敵カ間合ヲ切ルカ或ハ上體ヲ後方ニ反シテ我刺突シタル劍ヲ剩サントシタルトキ又ハ輕ク擊拂ノミヲ行ヒ油斷シタルトキ行フ

2、直突……脱突

單一ノ刺突(一)ノ要領ニヨリ敵ノ左拳ノ右上方ヨリ上胴ヲ刺突シ更ニ進ミテ其ノ反對方向ヨリ上胴ヲ刺突ス

此動作ハ敵カ我カ刺突シタル銃ヲ押ユルノミニテ返突セサルトキ或ハ上體ヲ反シテ我刺突シタル銃ヲ擊拂スルモノニ對シテ行フ

イ、(1)ノ場合ノ裏業參照
ロ、敵我左拳ノ左上方ヨリ刺突シ來ルトキ之ニ應スル變化ノ刺突法參照

3、直突……下突

單一ノ刺突(一)ノ要領ニヨリ敵ノ左拳ノ右上方ヨリ上胴ヲ刺突シ直ニ續キテ下胴ヲ刺突ス
此動作ハ我刺突ニ對シ手元ヲ上ケテ防ク者ニ對シテ行フ

4、脱突……脱突

單一ノ刺突(一)ノ要領ニヨリ敵ノ左拳ノ左上方ヨリ上胴ヲ刺突シ更ニ同法ヲ連續ス

此動作ハ敵カ防キタルノミニテ油斷スルトキ或ハ最初ノ刺突不確實ナルカ又ハ突キ脱シタルトキ行フ

イ、(1)ノ場合ノ裏業參照
ロ、敵我左拳ノ下方ヨリ刺突シ來ルトキ之ニ應スル變化ノ刺突法參照
(2)ノ裏業(ロ)參照

5、脱突……直突

單一ノ刺突(一)ノ要領ニヨリ敵ノ左拳ノ左上方ヨリ上胴ヲ刺突シ更ニ進ミテ其ノ反対方向ヨリ上胴ヲ刺突ス

此動作ハ敵カ左手ヲ引キ或ハ左手ノミヲ以テ防クモノ又ハ體勢ヲ崩シテ防キ返突セサルモノニ對シテ行フ

6、脱突……下突

單一ノ刺突(一)ノ要領ニヨリ敵ノ左拳ノ左上方ヨリ上胴ヲ刺突シ更ニ左前方ニ進ミテ下胴ヲ刺突ス

(2)ノ裏業参照

(2)(3)ノ裏業(口)参照

7、下突……直突(喉)

此動作ハ右手ヲ著シク上ケテ防クカ或ハ左手ヲ左上方ニ上ケテ防クモノニ對シテ行フ

單一ノ刺突(一)ノ要領ニ依リ敵ノ左拳ノ下方ヨリ下胴ヲ刺突シ更ニ左前方ニ進ミテ上胴(喉)ヲ刺突ス

此動作ハ兩手ヲ下ケテ下胴ヲ防クモノ或ハ右手ヲ著シク上ケテ防クモノ又ハ兩手ヲ下ケ間合ヲ切ルモノニ對シテ行フ

以上ハ二段ノ刺突ヲ示シタルモノニシテ狀況ニ應シ此ノ動作ヲ連続スレ

(8)ノ裏業参照

第八 見セテ行フ刺突法(敵ヲ欺騙シテ行フ刺突法)

見セテ行フ(欺騙シテ行フ)刺突ハ好ミテ獎勵スヘキモノニアラス之レ己ヨリ上手ノ者沈著剛膽ナルモノ或ハ機敏ナル者等ニ對シテハ却ツテ機先ヲ制セラレ易ケレハナリ然レモ常ニ防勢ニ立ツ者常ニ後ノ先ヲ刺突セントスル者或ハ神經過敏ナル者等ニ對シテハ成效スルコトアリ如何ナル場合ト雖臂ノミヲ以テ刺突セントスル如

ク裝ハス氣合モ之ニ伴ヒ努メテ迅速ニ行フヲ要ス但シ大キク見セテ十分ニ之ヲ防カシメ其ノ虛ニ乘シテ刺突スルトキハ又格別ナリ而シテ敵ヲ欺騙セントスルトキハ敵モ亦其ノ機ニ乘シ刺突シ來ルモノナルヲ以テ之ニ應スル注意ヲ必要トス

1、右ヲ見セ左ヲ突ケ

イ、敵ノ左拳ノ右上方ヨリ上脗ヲ刺突セントスル如ク動作シ敵ノ之ニ應シテ防ク頭ニ乘シ其ノ劍ヲ脱シ進出シテ敵ノ左拳ノ左上方ヨリ上脗ヲ刺突ス

イ、敵我左拳ノ左上方ヨリ刺突シ來ルトキ之ニ應スル變化ノ刺突法參照
ロ、敵ノ見セタル頭ニ乘シ敵ノ劍上ヨリ上脗ヲ刺突ス

此動作ニ於テ最初欺キテ動作ス
ルトキハ稍左前方ニ進出スルカ
或ハ真直ニ進ミテ動作シ劍尖ハ
可成捷路ヲ經シムルヲ要ス

ロ、左足ヨリ左前方ニ進ミツツ氣分
ヲ以テ右ヨリ(敵ノ左拳ノ右上方
ヨリ)刺突セントスル如ク裝ヒ進
出シテ敵ノ左拳ノ左上方ヨリ上
胴ヲ刺突ス

此動作ハ右ノ返突ヲ得意トスル
モノ即チ右ヲ明ケ右ノ返突ヲナ
サント待ツモノニ對シテ行フ

2、上ニ見セ下ヲ突ケ

敵我左拳ノ左上方ヨリ刺突
シ來ルトキ之ニ應スル變化
ノ刺突法參照

イ、下ノ返突

敵ノ左拳ノ右上方ヨリ上胴ヲ刺突
セントスル如ク動作シ敵ノ之ニ應
シテ防ク頭ニ乗シ稍左前方ニ進ミ
テ敵ノ下胴ヲ刺突ス

ロ、上ニ見セテ下ニ變化スル
頭ニ乗シ上胴ヲ刺突ス

此動作ニ於テモ亦最初欺キテ動作
スルトキハ僅ニ前進シ本刺突ニ十
分ニ前進スルヲ要ス此ノ動作ハ特
ニ迅速ヲ尙フ

3、左ニ見セ右ヲ突ケ

敵ノ左拳ノ左上方ヨリ上胴ヲ刺突
セントスル如ク動作シ敵ノ之ニ應
シテ防ク頭ニ乗シ其ノ劍ヲ脱シ進
出シテ敵ノ左拳ノ右上方ヨリ上胴

ロ、左ニ見スル頭ニ乗シ上胴
ヲ突ス
ロ、右ノ返突

ヲ刺突ス

此動作ニ於テ最初欺キテ動作スル
トキハ可成手元ヨリ刺突セントス
ル如ク動作シ敵ノ左拳ニ近ク劍尖
ヲ經過セシメ本刺突ヲ行フヲ有利
トス

4、左ニ見セ左ヲ突ケ

右足ヨリ僅ニ右ニ移動シ劍尖モ之
ニ伴ヒテ僅ニ右ニ移シ敵ノ左拳ノ
左上方ヨリ刺突セントスル氣分ヲ
示シ左前方ニ進出スルト同時ニ敵
ノ左拳ノ左上方ヨリ上胴ヲ刺突ス
此動作ハ我左ヨリ刺突セントスル

敵我左拳ノ左上方ヨリ刺突
シ來ルトキ之ニ應スル變化
ノ刺突法參照

氣分ヲ示ストキ敵劍尖ヲ左ニ移シ
テ刺突部ヲ蔽フカ如キトキ行フ

5、下ニ見セ上ヲ突ケ

敵ノ左拳ノ下方ヨリ下胴ヲ刺突セ
ントスル如ク動作シ敵ノ之ニ應シ
テ防ク頭ニ乘シ進出シテ上胴ヲ刺
突ス

イ、下ニ見スル頭ニ乘シ上胴
ヲ刺突ス
ロ、右ノ返突

此動作ニ於テ最初下ニ見セル場合
ハ著シク劍尖ヲ下クルトキハ却ツ
テ機先ヲ制セラレ易ク又劍尖ト刺
突部トノ距離遠カラサルヲ以テ不
利ナリ故ニ可成敵ノ左拳ノ直下ノ
附近ニ下クルヲ要ス而シテ欺騙シ

テ後ノ刺突ニ於テ劍尖ヲ以テ右ニ
孤形ヲ畫ク如ク廻シテ刺突スルト
キハ時期遅レ奏効不確實トナルヲ
以テ見セタル劍尖ノ位置ヨリ眞直
ニ突キ出スヲ要ス

此ノ外打撃又ハ押壓ヲ加ヘ見セテ行
フ刺突法アリ例ヘハ打テ下ヲ見セ上
ヲ突ケ打テ左ヲ見セ右ヲ突ケ等ノ如
シ又見セテ行フ刺突ノミヲ連續シタ
ルモノアリ例ヘハ右、左ニ見セ右ヲ突
ケ、上、下ニ見セ上ヲ突ケ等ノ如シ

第九 接近シタル場合ノ刺突法

彼我接近シタル場合ハ特ニ氣分ヲ以
テ敵ヲ制壓スルハ勿論敵ノ眼、手元足
元ニ注意スルコト肝要ナリ其ノ他敵
ノ劍ヲ我肩、頸等ニ觸レシメヌ又手元
ヲ押ヘラレサル如ク注意シ左手ハ上
帯ノ下部附近ヲ握ルヲ有利トス

其一 普通交叉ニテ接近シタル場合

1、直突
敵我ヲ押シ或ハ我銃ヲ壓シ又ハ其
ノ儘間合ヲ取ラントスルトキハ之
ニ附ケ入り直ニ敵ノ上脘ヲ刺突ス

右ノ返突

此動作ハ敵カ後退シツツアルトキ
ニ乗スルヲ可トス

2、脱突

敵我劍ヲ壓シ後退セントスルカ或
ハ我後退セントスルトキ敵我劍ヲ
壓スルトキハ其ノ劍ヲ脱シ上脰ヲ
刺突ス此動作ハ猶豫セハ却ツテ敵
ニ乗セラルルヲ以テ可成機敏ニ行
フヲ要ス

左ノ返突

3、下突

敵ヲ押シ離スト同時ニ或ハ其儘右
足ヨリ後退シツツ僅ニ手元ヲ下ケ
下脰ヲ刺突ス

下ノ返突

此動作ハ一般ニ刺突力弱キニ失シ易
キヲ以テ特ニ右手ノ力ヲ要求ス尙
突キ上ケサル如ク注意スルヲ要ス

4、押セ(打テ)突

右足ヨリ後方ニ引クト同時ニ兩手
ニ力ヲ加ヘ敵ノ銃ヲ下方ニ押壓(打
撃)シツツ上脰ヲ刺突ス

敵ノ押ス(打ツ)頭ヲ反對ニ
右前下方ニ押シ返シ上脰
ヲ刺突ス

此動作ニ於テ敵ノ臂力大ナルトキ
ハ左後方ニ後退シツツ喉ヲ刺突ス
ルヲ有利トス

5、押セ(打テ)脱セ

右足ヨリ後方ニ退キツツ敵ノ銃ヲ
下方ニ押壓(打撃)シ敵其銃ヲ返ス頭

イ、(4)ノ裏業参照
ロ、左ノ返突(喉)

ニ乗シ敵ノ左拳ノ左上方ヨリ上胴ヲ刺突ス

此動作ハ手元堅キモノニ對シテ行フ

6、押セ(打テ)下ヲ突ケ

右足ヨリ後方ニ退キツツ敵ノ銃ヲ下方ニ押壓(打撃)シ敵カ其銃ヲ返ス頭ニ乗シ敵ノ左拳ノ下方ヨリ下胴ヲ刺突ス

此ノ動作ハ打撃又ハ押壓ヲ受クルトキ左拳ヲ上クル者ニ對シテ行フ

7、下ニ見セ上ヲ突ケ

右足ヨリ後方ニ退キツツ劍尖ヲ下

イ、(4)ノ裏業參照
ロ、下ノ返突

イ、下ニ見セル頭ニ乗シ上胴ヲ刺突ス

ケテ下胴ヲ刺突セントスル如ク動作シ敵ノ之ニ應シテ兩手ヲ下クルカ或ハ右手ヲ上ケテ防キタルトキ直ニ上胴ヲ刺突ス

此動作ニ於テモ下ニ見セタル劍尖ノ位置ヨリ真直ニ上胴ヲ刺突スルヲ要ス

8、押セ(打テ)下ニ見セ上ヲ突ケ

右足ヨリ後方ニ退キツツ敵ノ銃ヲ右前下方ニ輕ク押壓(打撃)シ(7)ノ動作ヲ行フ

此動作ハ手元堅ク神經過敏ナル者ニ對シテ行フ

ロ右ノ返突

イ、(4)ノ裏業參照
ロ、(7)ノ裏業參照

押ヘラレタル劍ヲ脱シ上
(下)胴或ハ喉ヲ刺突ス

後退シツツ喉或ハ上胴ヲ
刺突ス

9、敵ノ銃ヲ右下方ニ押ヘタル場合
敵ノ銃ヲ押ヘタル儘右足ヨリ後退
シツツ喉或ハ上胴ヲ刺突ス
此ノ動作ハ打撃或ハ押壓ヲ加ヘテ
行フモ可ナリ

10、敵ヨリ我銃ヲ左下方ニ押ヘラレタ
ル場合

右足ヲ敵ノ後方ニ踏ミ出スト同時
ニ右手ヲ以テ敵ノ體ヲ押シ離シ爾
後ノ處置ヲ取ルカ或ハ右足ヨリ後
方ニ退キツツ押ヘタル敵ノ劍ヲ脱
シ下胴或ハ喉ヲ刺突ス

其二 反對交叉ニテ接近シタ

ル場合

1、直突(喉)

敵我ヲ押シテ間合ヲ取ラントスル
トキ或ハ我レ敵ニ體當リヲナシ之
ヲ押シ離シ又ハ兩手ニ力ヲ加ヘ我
劍ヲ敵ノ胸ニ當テ敵ノ體ヲ右前方
ニ押シ離シ直ニ上胴(喉)ヲ刺突ス
敵其ノ劍ヲ以テ我左臂ヲ押ヘ後退
セントスルトキハ兩手ヲ後方ニ引
キテ其ノ劍ヲ脱シ直ニ上胴ヲ刺突
ス
此動作ハ手元ヲ少シク上ケテ行フ
ヲ可トス

左ノ返突

右(左)ノ返突

2、脱突

敵我銃ヲ左ヨリ押へ後退セントス
ルトキハ其劍ヲ脱シ敵ノ左拳ノ右
上方ヨリ上胴ヲ刺突ス
此動作ヨリ更ニ續キテ下胴或ハ敵
ノ左拳ノ左上方ヨリ上胴ヲ刺突シ
得ルコトアリ

3、下突

(1)ト同要領ニヨリ下胴ヲ刺突ス

4、左ヨリ押セ(打テ)突ケ

右足ヨリ後退シツツ敵ノ劍ヲ左下
方ニ押壓(打撃)シ直ニ上胴(喉)ヲ刺突
ス

右ノ返突

下ノ返突

イ、敵ノ押壓(打撃)スル頭ヲ反
對ニ押シ返シ上胴(喉)ヲ刺
突ス
ロ、左ノ返突

5、敵ノ銃ヲ左下方ニ押へタル場合

右足ヲ敵ノ體ノ後方ニ踏ミ出スト
同時ニ右手ヲ以テ敵ノ體ヲ其ノ向
キタル方向ニ押シ離シ敵ノ我方ニ
振リ向ク頭ニ乗シ上胴(喉)或ハ下胴
ヲ刺突スルカ或ハ十分ニ押へタル
儘後退シツツ上胴(喉)又ハ下胴ヲ刺
突ス

6、敵ヨリ我銃ヲ右下方ニ押へラレタル場合

左足ヲ敵ノ右足ノ直前ニ踏ミ出ス
ト同時ニ敵ノ銃ヲ其右肩ノ方向ニ
上方ヨリ捏ネ返シ爾後ノ處置ヲ取

イ、右(左)ノ返突

ロ、敵ノ銃ヲ脱シ上胴(喉)ヲ刺
突ス
ハ、(6)ノ業ヲ行フ

イ、(5)ノ業ヲ行フ

ロ、捏ネ返サレテ木銃ヲ落シ
タルトキハ直ニ面蒲團ノ
上端ト面ノ前垂ヲ握リ面
ヲ捻リテ敵ノ喉ヲ締ム

ルカ或ハ我體ヲ敵ノ體ヨリ離ササル如ク速ニ普通交叉ニテ接近シタル場合ノ如ク劍尖ヲ下方ヨリ廻シテ銃ヲ組ミ換ヘ(一)ノ場合ノ動作ヲ行フ或ハ下方ヨリ敵ノ銃ヲ上方ニ打撃スルト同時ニ右足ヨリ後方ニ退キツツ敵ノ上脘ヲ刺突ス

以上ノ如ク數種ノ應用變化ノ擊突法ヲ示シタリト雖之レ單ニ術ノ研究ニシテ劍道ノ一部ニ過キス要ハ速ニ敵ノ意志動作ヲ察知シ適當ナル擊突距離ヲ判定シ氣劍體ノ一致活動ニ依リ一擊一突タモ敵ヨリ受クルコトナクシテ敵ヲ一擊一突ノ下ニ殺傷スルノ方法手段ヲ講スルコト肝要ナリ古來ヨリ斯道ノ達人ハ言ヘリ所謂腹力出來テ切尖カ生キテ正確ナル姿勢ニアルモノニ對シテハ攻撃頗ル困難

ナリト誠ニ然リ劍道ヲ研究スルモノハ此等ノ點ニ留意シ斯ノ如クシテ敵ヲ攻メテ敵ノ虛ヲ發見シ攻撃ノ緒ヲ開クヘク或ハ敵ニシテ我虛ヲ發見スルコトナク無暴ニ攻撃シ來ランカ即チ以上述フル所ノ數種ノ擊突法ヲ應用スヘキナリ

大正七年一月二十日印刷
大正七年一月二十五日發行

正價金貳拾五錢



著者

東京府豐多摩郡大久保町西大久保二百七十五番地

江口卯吉

發行者

東京市麴町區飯田町二丁目三十三番地

柴田源藏

印刷者

東京市麴町區飯田町二丁目三十三番地

三澤善哉

印刷所

東京市麴町區飯田町二丁目三十三番地

株式會社 兵林館印刷所

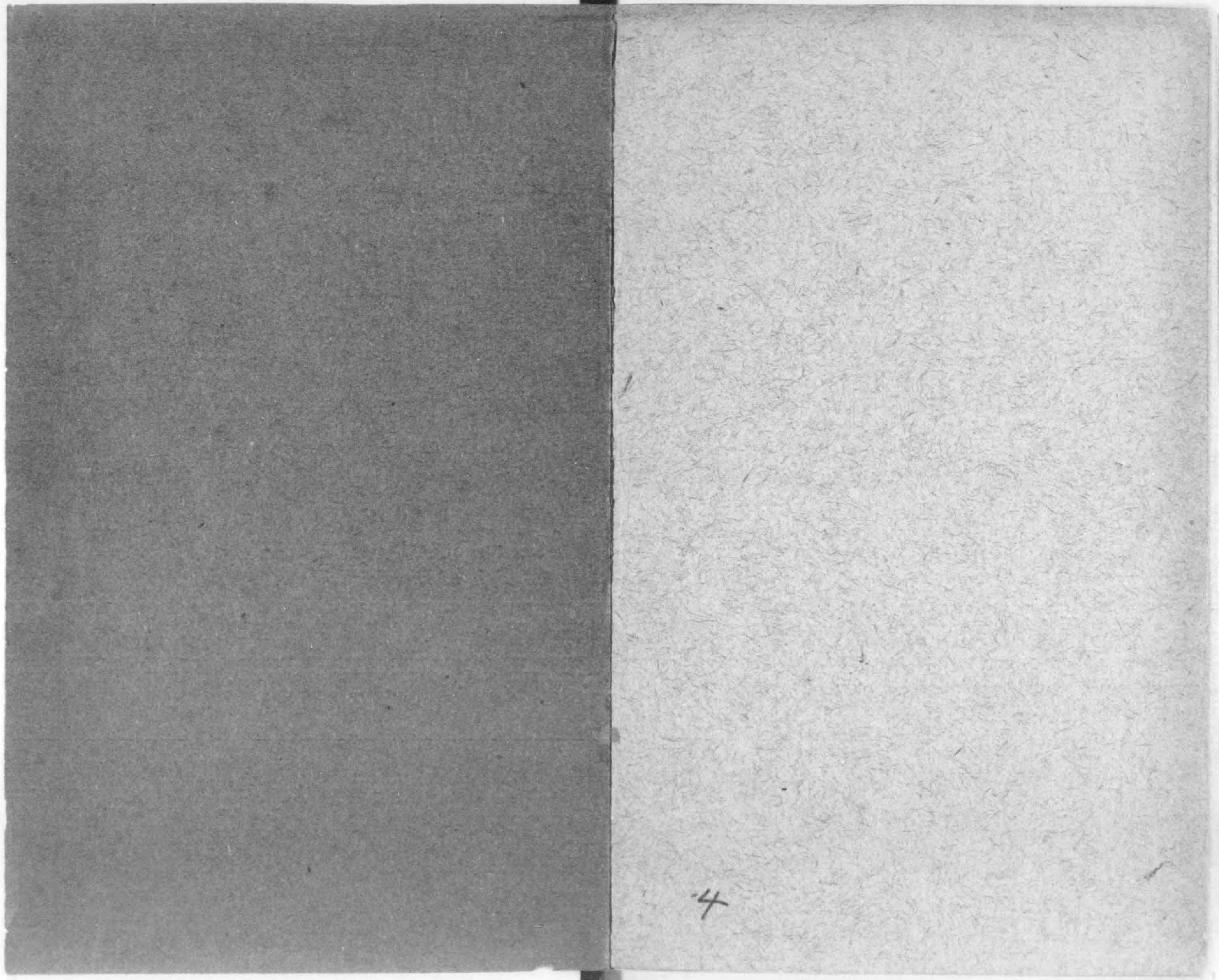
東京市麴町區飯田町二丁目三十三番地

發行所

株式會社 兵林

館

電話番町 六八九番
五二九番
振替口座東京四九三六番



4

378
370

終

